

平成22年度

# 名古屋市美術館年報

2 0 1 0

# 目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	11
2 特別展	14
教育普及事業	19
1 教育プログラム	19
1. 一般成人対象の事業	20
(1)講演会・解説会	20
(2)美術講座 コレクション解析学	20
(3)上映会	21
(4)パフォーマンス・ワークショップ	22
(5)その他	22
2. 子ども対象の事業	22
(1)学校休業日の体験活動の推進	22
(2)夏休みこどもの美術館	24
(3)その他	25
3. 学校対象事業	26
(1)ボランティアによる学校団体向け ガイドトークの実績	26
(2)アートカード貸出実績	27
(3)出前アート体験	28
(4)中学校美術部合同鑑賞会	29
(5)就業・職業・職場体験及び 職場訪問受け入れ	30
2 ボランティア	31
(1)ボランティア登録者	31
(2)定例会	31
(3)ガイド活動	31
(4)サポート活動	32
(5)案内活動研修	33
(6)その他	33
3 協力会	34
4 図書室	34
5 出版	35
資料	36
1 収集	36
(1)購入	37
(2)受贈	37
(3)特別資料	43
(4)資料収集状況一覧	46
2 保存・修復	47
3 調査・研究	48
4 貸出	49
入館者一覧	51
組織・予算	52
1 組織図	52
2 美術館協議会	52
(1)名古屋市美術館協議会委員	52
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	52
3 職員	52
4 運営予算	52

## 序

### PREFACE

名古屋市美術館の平成22年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

平成22年度もこれまで通り、収集、展示、教育・普及という美術館活動の3つの柱を大切に実績を積み上げました。

まず、収集につきましては平成19年度に特別展を開催した中村宏の、初期の貴重な作品をはじめ、加藤延三、堀尾実、亀山巖らの郷土関係の作家の作品と資料、さらに馬場八潮の写真作品や資料など、実に700点近い作品と資料を新たにコレクションに加えることができました。

展示活動のうち、特別展につきましては「静けさの中から 桑山忠明／村上友晴」「あいちトリエンナーレ2010」「ポーラ美術館コレクション展」「ゴッホ展」の4本を開催しました。特別展の開催にあたっては、毎年様々な分野の展覧会をバランスよく組み合わせることを念頭において決定していますが、平成22年度は前半に現代美術の展覧会、後半に西洋近代絵画の展覧会が連続する形になりました。「静けさの中から」は、桑山忠明と村上友晴という二人の現代美術の作家を、連続個展というユニークな型式で紹介したもので、今までにない会場空間の作り方も大きな話題になりました。「あいちトリエンナーレ2010」は愛知を舞台に3年ごとに開催される国際美術展の記念すべき第一回展でした。愛知県と名古屋市が手を携えて開催したこの催しは、とかく分かりにくいと敬遠されがちな現代美術の評価を大きく変え、子どもからお年寄りまで大勢の方々を引きつけました。続いて開催された「ポーラ美術館コレクション展」と「ゴッホ展」は、いずれも日本人に馴染みの深い印象派とエコール・ド・パリの作品とあって、相変わらずの人気を集めました。

常設展では例年通り、小テーマを設けながら作品の隠れた魅力を引き出すことに努めました。常設企画展では名古屋の前衛美術グループ「ぶろだくしょん我S」のユニークな活動の紹介と、地元で活躍する作家を紹介する試みの第一回展として、和紙を用いた繊細な作品で知られる「米山和子展」を開催しました。

教育・普及活動については、所蔵品の魅力を深く掘り下げて紹介する「コレクション解析学」や、特別展毎の講演会や解説会、子供たちを対象に展開される「キッズの日」や「夏休みこどもの美術館」、さらにはボランティアによる常設展・特別展のギャラリートークなど、多様なプログラムを年間を通じて開催しました。

年度末の3月11日に起こった東日本大震災は、それから10ヶ月あまりを経た今もお、大きな傷跡を日本に残しています。このような未曾有の天災に見舞われた時、美術館は、そして美術は、何をなし得るのか？ 美術の果たす社会的役割とは何か？ 今回の震災は根本的な問題を私たちに突きつけました。その答えは容易に見つかるものではありませんが、常にその間を胸に抱きながら今後の美術館活動を続けていきたいと考えています。どうぞ、今後とも皆様方のご理解と一層のご支援をお願いいたします。

2012年1月

名古屋市美術館

## 沿革

### HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
- 12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
- 4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
- 7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
- 8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了
- 9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了
- 2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
- 7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
- 7月 美術館本体工事完成
- 10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定
- 4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
- 4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱  
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱  
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱



平成22年度の常設展（名品コレクション展）は、昨年に引き続いて、名古屋市美術館のコレクションを多角的に紹介することを目的として、総計3回の展示を各2名の学芸員がチームとなって、それぞれが独自のテーマを設定して開催しました。

名品コレクション展Ⅰにおいては、「郷土の美術」と「現代の美術」を連携させて、「絵画と彫刻のあいま」というテーマで、近代・現代美術における絵画と彫刻の中間領域にある多彩な作品を紹介しました。また、「エコール・ド・パリ」では、静物画と人物画における「コンポジション」の問題を取り上げ、「メキシコ・ルネサンス」では、壁画作品に関連する下絵や写真を展示しました。

名品コレクション展Ⅱの前期においては、毎年恒例の教育普及プログラム「夏休みこどもの美術館」の舞台として、「郷土の美術」と「現代の美術」のコーナーを使用して、「どうやって、つくったの？」というテーマで、作品の素材や技法、表現方法などについて、作品を観察しながら考える展示を行いました。

名品コレクション展Ⅱの後期は、特別展「あいちトリエンナーレ2010」の開催に合わせて、国内外からの多数の来館者に、名古屋市美術館の代表的なコレクションを紹介することを目的とした展示を行いました。四つの収集方針である「郷土の美術」「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」が展開された都市と時代を設定して、それぞれ「東京1950～70

年代」「パリ1910～30年代」「メキシコ・シティ1930～50年代」「ニューヨーク1950～70年代」というテーマで展示作品を選定しました。

名品コレクション展Ⅲでは、名古屋において「シュルレアリスム」運動が盛んであったことを踏まえて、「郷土の美術」から「現代の美術」「メキシコ・ルネサンス」へと、「シュルレアリスム」というテーマを拡張して展示しました。また、「エコール・ド・パリ」の代表画家「藤田嗣治とパリの日本人画家たち」や「現代の美術」で活躍する「アメリカの作家たち」を紹介するとともに、「郷土の美術」の代表作家・浅野弥衛を中心にして、「線描を楽しむ」と題して、絵画のなかの線描の面白さを探究する小特集も行いました。

常設企画展としては、1969年から1974年までのわずか5年間でしたが、美術表現の枠組みを問い直すようなハプニングやパフォーマンスに類する美術活動を名古屋において展開したグループ「ぶろだくしょん我S」の美術館における初めての個展を開催しました。

また、名古屋において活躍する現代美術家たちを紹介する常設企画展の第一弾として「ポジション2011 米山和子—ほどくかたち、つむぐけしき」を開催しました。和紙などの身近な素材を使って、人体像などの繊細な造形物を空間構成することで、「存在と不在」「内側と外側」など、「境界」について思索した作品を紹介しました。

# (1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of  
Nagoya City Art Museum

## 名品コレクション展 I

会期：2010年4月10日(土)～7月4日(日)

常設展示室 1・2

☆：初出品 \*：寄託作品

出品作品

作品展示期間 / I：4月10日(土)～5月16日(日) / II：5月18日(火)～7月4日(日)

### コレクション解析学

☆1	藤本由紀夫	THE SEPARATED	2005年	ミクストメディア	102.0×70.0×5.0cm	I・II
----	-------	---------------	-------	----------	------------------	------

### エコール・ド・パリ:コンポジションー静物/人物

1	マルク・シャガール	二重肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0cm	I・II
2	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913年	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0cm	I・II
3	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918年	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4cm	I・II
*4	アントワーヌ・ペヴスナー	コンポジション	1915年	厚紙に裏打ちされたキャンヴァス・油彩	45.0×45.0cm	I・II
5	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923年	ブロンズ	84.0×35.0×31.0cm	I・II
*6	ジャン・メッツアンジェ	静物	n.d.	油彩・キャンヴァス	49.0×60.0cm	I・II
*7	アルベール・グレース	キュビズム:静物	n.d.	油彩・キャンヴァス	61.0×47.5cm	I・II
8	フランティシク・ドルティコル	円の正接	1925-28年	ゼラチン・シルバー・プリント	22.5×28.4cm	II
*9	フェルナン・レジェ	青い背景のコンポジション	1930年	油彩・キャンヴァス	92×60cm	I・II
10	東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922年	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9cm	I
11	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913年	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0cm	I・II
12	モイーズ・キスリング	新聞のある静物	1913年	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0cm	I・II
13	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910年	油彩・厚紙	73.1×92.0cm	I・II
14	ジュール・パスキン	横たわるエリアーヌ	1929年	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6cm	I・II
15	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984)年	ブロンズ	17.0×26.0×18.0cm	I・II
16	ハイム・スーチン	鳥のいる静物	c.1918-19年	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5cm	I・II

### 現代の美術:絵画と彫刻のあいま

1	赤瀬川原平	押収品・模型千円札パネル作品	1963年	模型千円札,写真,ボルト,板	82.0×79.0cm	I・II
2	荒川修作	デュシャンの大ガラスを小さな細部としている図式	1964年	ミクストメディア	230.0×168.0×57.0cm	I・II
3	河口龍夫	関係一質(青84-4,10)	1984年	綿布,銅板,液体	各180.0×100.0×1.5cm	I・II
4	河原 温	《Today》シリーズより				
		JUNE 5, 1967	1967年	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0cm	I・II
		20 ABR. 68	1968年	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0cm	I・II
		MAY 29, 1971	1971年	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5cm	I・II
5	桑山忠明	無題	1965年	アクリル・キャンヴァス	247.7×215.9cm	I・II
6	桑山忠明	無題	1984-85年	油彩・和紙,板	289.6×155.7×127.6cm	I・II
7	若林 奮	Everest Hotel VI, VII	1991年	アクリル,麻,石膏,鉄,硫黄,木	各95.0×74.5 71.0cm	I・II
8	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5cm	I・II
9	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984年	木	155.0×105.0×60.0cm	I・II
10	ナムジュン・バイク	ロボット家族(お父さん/お母さん)	1986年	テレビ,ビデオ	226.1×139.1×52.1cm	I・II
					203.1×153.7×53.3cm	I・II
11	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983年	ブロンズ	121.9×94.0 61.0cm	I・II
12	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム,ミクストメディア	345.5×365.8×139.7cm	I・II

## メキシコ・ルネサンス:壁画一下絵と写真

1	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938年	油彩・ブリキ	14.9×11.0cm	I・II
2	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947年	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7cm	I・II
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932年	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9cm	I・II
4	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933年	フレスコ・石膏(3層),ワイヤラス(金網),合板	161.9×201.3cm	I・II
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	クアウテモックの肖像	1947年	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0cm	I・II
6	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961年	アクリル・板	86.4×64.8cm	I・II
7	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946年	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0cm	I・II
8	ルフィーノ・タマヨ	『聖ヨハネの黙示録』より(No.3 戦争)	1959年	リトグラフ・紙	33.0×50.3cm	I
9	ルフィーノ・タマヨ	『聖ヨハネの黙示録』より(No.7 征服者)	1959年	リトグラフ・紙	33.0×50.3cm	I
10	ルフィーノ・タマヨ	『聖ヨハネの黙示録』より(No.11 飢饉)	1959年	リトグラフ・紙	33.0×50.3cm	II
11	ルフィーノ・タマヨ	『聖ヨハネの黙示録』より(No.15 死)	1959年	リトグラフ・紙	33.0×50.3cm	II
12	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:統一戦線	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	24.1×18.9cm	II
13	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:抗議	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	24.1×18.6cm	I
14	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:労働へ	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	21.0×14.5cm	II
15	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:労働組合	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	25.3×20.3cm	II
16	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:ABCの学習	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	25.3×20.2cm	II
17	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:脱穀	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	21.0×14.5cm	I
18	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:「世界の全ての富は大地からもたらされる」	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	23.4×19.2cm	II
19	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:トラクター	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	25.3×20.2cm	I
20	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:眠り-貧者の夜	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	25.3×20.3cm	I
21	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:保証-資本主義の残骸	c.1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	23.3×18.8cm	I
22	ダビッド・アルファロ・シケイロス	独立、1818年	1941年	インク・デュコ・紙,キャンヴァス	51.7×99.0cm	I
23	ルフィーノ・タマヨ	メキシコ国立音楽学校壁画構想案	1961年	グアッシュ・紙	29.6×42.5cm	II
24	ディエゴ・リベラ	赤軍の行進	1961年	木炭・紙	48.0×65.0cm	II
25	ベン・シャーン	牛乳工場で働く囚人たち	1934年	グアッシュ・紙	35.6×49.5cm	I
26	ベン・シャーン	健康診断を受ける囚人たち	1931年	テンペラ・厚紙	26.8×39.8cm	I
27	北川民次	赤津陶工の家	1941年	テンペラ・キャンヴァス	128.1×163.6cm	I・II
28	北川民次	赤津陶工の家(下図)	1941年	水彩,鉛筆・紙	29.8×38.0cm	II

## 郷土の美術:絵画と彫刻のあいま

☆1	岩田信市	赤と緑	1965年頃	油彩,ペンキ・発砲スチロール,合板	152.8×152.8cm	I・II
☆2	岩田信市	ランニングマン	1965年頃	発砲スチロール	各h.148.0cm	I・II
3	大野椒嵩	緋	1963年	絹本着彩,ジュート	117.0×93.0cm	I・II
4	大野椒嵩	羯羅俱織	1982年	絹本着彩	96.5×80.0cm	I・II
☆5	クガ・マリフ	時展・古代	1956年	油彩・キャンヴァス	73.0×91.0cm	I・II
☆6	クガ・マリフ	円による構成	1959年	ミクストメディア	138.0×91.0×9.0cm	I・II
☆7	クガ・マリフ	拒否のサイン	1966年	ミクストメディア	180.0×360.0×25.0cm	I・II
8	久野 真	鋼鉄による作品	1960年	鉄,石膏・板	127.0×91.0cm	I・II
9	久野 真	Relief Painting 4	1998年	ステンレススチール,アルミニウム・板	140.0×200.0cm	I・II

# 名品コレクション展Ⅱ

会期：2010年7月17日(土)～11月23日(火)

前期：7月17日(土)～9月20日(月)

後期：9月22日(水)～11月23日(火)

常設展示室1・2

\*：寄託作品

出品作品

作品展示期間／Ⅰ：7月17日(土)～9月20日(月)／Ⅱ：9月22日(水)～11月23日(火)

## コレクション解析学

1	元永定正	作品	1961年	油性合成樹脂塗料・キャンヴァス	118.0×93.0cm	Ⅰ
2	マルク・シャガール	聖書 1. 人類創造	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
3	マルク・シャガール	聖書 10. アブラハムの犠牲	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
4	マルク・シャガール	聖書 30. モーセと蛇	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
5	マルク・シャガール	聖書 37. 神から石板を授かるモーセ	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
6	マルク・シャガール	聖書 68. エルサレムに運ばれる神の箱	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
7	マルク・シャガール	聖書 75. ダビデに跪くバテシバ	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
8	マルク・シャガール	聖書 98. エルサレムへの恩寵	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ
9	マルク・シャガール	聖書103. エレミヤの嘆き	1931-39/1952-56年	エッチング、ドライポイント・紙	46.0×35.0cm	Ⅱ

## エコール・ド・パリ:パリ 1910-30年代

1	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923年	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5cm	Ⅰ・Ⅱ
2	藤田嗣治	自画像	1929年	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5cm	Ⅰ・Ⅱ
3	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920年	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6cm	Ⅰ・Ⅱ
4	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935年	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0cm	Ⅰ・Ⅱ
5	マルク・シャガール	二重肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0cm	Ⅰ・Ⅱ
6	ハイム・スーチン	鳥のいる生物	1918-19年頃	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5cm	Ⅰ・Ⅱ
7	ハイム・スーチン	セレの風景	1922年頃	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2cm	Ⅰ・Ⅱ
8	ジュール・バスキン	横たわるエリアーナ	1929年	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6cm	Ⅰ・Ⅱ
9	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917年(1984年鑄造)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0cm	Ⅰ・Ⅱ
10	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	1911-12年頃	油彩、水彩、紙・板	83.0×47.8cm	Ⅰ・Ⅱ
11	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918年頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4cm	Ⅰ・Ⅱ
12	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910年	油彩・厚紙	73.1×92.0cm	Ⅰ・Ⅱ

## 現代の美術(前期):夏休み こどもの美術館「どうやって、つくったの?」

1	桑山忠明	無題	1973年	アクリル・キャンヴァス	直径225.0cm	Ⅰ
2	中村正義	男	1963年	紙本着彩、ダンボール	161.9×129.7cm	Ⅰ
3	野水 信	コの記号	1966年	鉄	160.0×100.0×100.0cm	Ⅰ
4	星野真吾	喪中の作品	1965年	紙本着彩	183.0×123.2cm	Ⅰ
5	元永定正	あかいしかくのなかはいろぬり	1981年	アクリル・キャンヴァス	182.0×227.0cm	Ⅰ
6	ベルント/ヒラ・ベッヒャー	巻上げ機	1980年	モノクロ写真 12点1組	154.2×165.6cm	Ⅰ
7	トニー・クラッグ	住家のある静かな場所	1984年	木	155.0×105.0×60.0cm	Ⅰ
8	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5cm	Ⅰ
9	リサ・ミルロイ	皿	1992年	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8cm	Ⅰ
10	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7cm	Ⅰ
11	クロード・ヴィアラ	無題	1979年	アクリル・テント	455.0×560.0cm	Ⅰ

## 現代の美術(後期):ニューヨーク 1970~90年代

1	アグネス・マーチン	無題No. 3	1992年	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0cm	Ⅱ
2	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62(1988)年	ブロンズ	190.0×51.0×48.0cm	Ⅱ
3	ロバート・ラウシェンバーグ	鐘	1981年	リトグラフ・紙	101.5×67.7cm	Ⅱ
4	エドワード・ルッシエ	20世紀	1988年	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0cm	Ⅱ
5	ショーン・スカリー	ボディ	1993年	油彩・キャンヴァス	213.4×243.8cm	Ⅱ
6	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7cm	Ⅱ
7	荒川修作	自画像	1967年	油彩、鉛筆・キャンヴァス	173.0×62.0cm	Ⅱ
* 8	荒川修作	MONALISA(モナリザ)	1971年	カラー・シルクスクリーン・紙	113.5×85.0cm	Ⅱ
9	荒川修作	大気のように何かに似ているもの:意図のある空間	1982-83年	アクリル・キャンヴァス(5パネル)	335.5×1,091.5cm	Ⅱ
10	河原 温	Todayシリーズより	1971/1972/ 1974/1977/ 1978/1982/ 1985/1987年	リキテックス・キャンヴァス	20.5×25.5cm/45.5×61.5cm/ 25.5×33.0cm/20.5×25.5cm/ 33.0×44.0cm/25.5×33.0cm/ 25.5×33.0cm/25.5×33.0cm	Ⅱ

11	桑山忠明	無題	1970年	アクリル・キャンヴァス(3パネル)	273.0×273.0cm	II
12	山本富章	無題	1987年	ミクストメディア	286.0×382.0×16.0cm	II
13	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5cm	II

## メキシコ・ルネサンス:メキシコ・シティ 1930-50年代

1	北川民次	チュルブスコのコンベント回廊	1923/1955年	油彩・キャンヴァス	71.3×61.5cm	I・II
2	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930年	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8cm	I・II
3	マリア・イスキエルド	巡礼者たち	1945年	油彩・キャンヴァス	60.0×75.0cm	I・II
4	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947年	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7cm	I・II
5	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932年	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9cm	I・II
6	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	1947年頃	油彩・メゾナイト	71.0×91.5cm	I・II
7	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938年	油彩・ブリキ	14.9×11.0cm	I・II
8	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934年	油彩・メゾナイト	152.7×78.7cm	I・II
9	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947年	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0cm	I・II
10	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948年	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4cm	I・II
11	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949年	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0cm	I・II
12	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933年	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3cm	I・II
13	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	制作年不詳	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0cm	I・II

## 郷土の美術(前期):夏休み こどもの美術館「どうやって、つくったの?」

1	浅野弥衛	それは閉ざされている	1955年	油彩・キャンヴァス	65.1×90.8cm	I
2	浅野弥衛	作品	1975年	油彩・キャンヴァス	91.0×91.1cm	I
3	浅野弥衛	作品	1976年	油彩・キャンヴァス	80.5×116.8cm	I
4	熊谷守一	冬の夜	1964年	油彩・板	24.0×33.3cm	I
5	三岸好太郎	構図(暖炉のある静物)	1933年	油彩・キャンヴァス	46.0×53.5cm	I
6	八島正明	行商人	1974年	油彩・キャンヴァス	112.1×162.1cm	I
7	八島正明	女	1980年	油彩・キャンヴァス	162.1×112.1cm	I
8	八島正明	夏の日	1985年	油彩・キャンヴァス	112.1×162.1cm	I

## 郷土の美術(後期):東京 1950~70年代

1	赤瀬川原平	あいまいな海10	1961年	コラージュ、インク・紙	35.5×24.5cm	II
2	赤瀬川原平	あいまいな海11(座骨内の眼球)	1961年	コラージュ、インク・紙	35.5×25.0cm	II
3	赤瀬川原平	あいまいな海1	1963年	コラージュ、インク、水彩・紙	37.9×29.1cm	II
4	赤瀬川原平	あいまいな海8	1963年	コラージュ、インク、水彩・紙	39.8×27.3cm	II
5	芥川紗織	神話より	1957年	染色・木綿	162.3×130.3cm	II
6	荒川修作	名前のない耐えているものNo.2	1958(1986)年	セメント、綿、絵具、木	253.5×123.1×22.7cm	II
7	河原 温	カム・オン・マイ・ハウス	1955年	油彩・キャンヴァス	125.0×181.0cm	II
8	河原 温	私生児の誕生	1955年	油彩・キャンヴァス	132.0×194.0cm	II
9	中村 宏	F601機	1970年	インク・紙	36.5×52.3cm	II
10	中村 宏	少女舟	1970年	インク・紙	36.7×52.4cm	II
11	中村 宏	少女列車	1970年	インク・紙	36.8×52.5cm	II
12	中村 宏	呪物たちの低空飛行	1970年	インク・紙	35.2×54.7cm	II
13	中村正義	自画像	1962年	紙本着彩	161.6×129.4cm	II
14	星野真吾	喪中の作品	1965年	紙本着彩	183.0×123.2cm	II
15	水谷勇夫	公証人	1960年	紙本着彩	162.0×130.0cm	II

# 名品コレクション展Ⅲ

会期：2010年12月4日(土)～2011年4月10日(日)

常設展示室 1・2

\*：寄託作品

作品展示期間／Ⅰ：12月4日(土)～2月6日(日)／Ⅱ：2月8日(火)～4月10日(日)

出品作品

## コレクション解析学

1	ジョナサン・ポロフスキー	ハンマリングマン	1982年	木、鉄、アルミニウム、モーター、ファイバーグラス	高さ442.0cm	I
2	アグネス・マーチン	無題No.3	1992年	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0cm	II

## エコール・ド・パリ：藤田嗣治とパリの日本人画家たち

1	マルク・シャガール	二重肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0cm	I・II
2	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908年	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0cm	I・II
3	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908年	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4cm	I・II
4	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1911-12年	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4cm	I・II
5	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12年	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8cm	I・II
6	ハイム・スーチン	鳥のいる静物	c.1918-19年	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5cm	I・II
7	海老原喜之助	群鳥	1931年	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2cm	I・II
8	海老原喜之助	風景	1927年	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3cm	I・II
9	岡 鹿之助	魚	1927年	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0cm	I・II
10	荻須高德	洗濯場(オーベルヴィリエ)	1958-59年	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2cm	I・II
11	田中 保	ソリタ・ソラノの肖像	1923年	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5cm	I・II
12	藤田嗣治	自画像	1929年	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5cm	I・II
13	藤田嗣治	家族の肖像	1932年	鉛筆、パステル・紙	86.5×67.2cm	I
14	藤田嗣治	風景	c.1918年	油彩・キャンヴァス	46.2×38.0cm	II

## 現代の美術(前期)：アメリカの作家たち

1	ジョセフ・アルバース	白線の正方形 VIII	1966年	シルクスクリーン・紙	52.5×52.5(39.8×39.8)cm	I
2	ジョナサン・ポロフスキー	ベルリンの夢	1986年	リトグラフ、鉄、アクリル	86.4×108.6cm	I
3	ジョナサン・ポロフスキー	I dream a dog walking on the tight rope.	1980年	ビデオ		I
4	ジョナサン・ポロフスキー	Man in space 82-83	1982-83年	ビデオ		I
5	レッド・グルームス	夜の今池トロリーバス(第一次提案)	1995年	グワッシュ・紙	74.9×106.0cm	I
6	レッド・グルームス	ジャズ・ジャンボリー(第二次提案)	1995年	フェルトペン、水彩・紙	59.9×45.8cm	I
7	レッド・グルームス	スターへの階段(第二次提案)	1995年	フェルトペン、水彩・紙	59.9×45.8cm	I
8	デイヴィッド・ホックニー	事務椅子に座るシーリア	1974年	エッチング・紙	90.5×70.5(68.0×54.5)cm	I
9	デイヴィッド・ホックニー	C.P. カヴァフィによる14編の詩のための挿絵 2 23.4歳のふたりの少年	1966年	エッチング、アクアチント・紙	44.0×33.0(34.1×22.2)cm	I
10	デイヴィッド・ホックニー	C.P. カヴァフィによる14編の詩のための挿絵 3 彼は次に品質を訊ねた	1966年	エッチング、アクアチント・紙	44.0×33.0(34.1×22.2)cm	I
11	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5cm	I
*12	ロイ・リキテンスタイン	ズドン!	1963年	オフセットリトグラフ・紙	47.3×68.7cm	I
13	アグネス・マーチン	無題 # 3	1992年	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0cm	I
14	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62年	ブロンズ	190.0×51.0×48.0cm	I
15	ジャクソン・ポロック	Number 27	1964年	シルクスクリーン・紙	74.0×58.7(61.6×47.3)cm	I
16	ロバート・ラウシェンバーグ	鐘	1981年	リトグラフ・紙	101.5×67.7cm	I
17	エドワード・ルッジェ	20世紀	1988年	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0cm	I
18	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7cm	I
19	ベン・シャーン	リディツェ	1942年	テンペラ・板	129.5×99.1cm	I
20	ベン・シャーン	友達の写真屋	1945年	テンペラ・板	50.8×76.2cm	I
21	荒川修作	忘れるということ(掘り起こされて出し尽くしていること)	1973-74年	アクリル・キャンヴァス、コラージュ	195.5×609.9cm	I
22	河原 温	MAR. 21, 1983	1983年	リキテックス・キャンヴァス	66.0×91.5cm	I
23	河原 温	12 AUG. 1984	1984年	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0cm	I
24	河原 温	FEB. 2, 1985	1985年	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0cm	I
25	桑山忠明	無題	1969年	アクリル・キャンヴァス	227.3×217.3cm	I



## 現代の美術(後期):現代美術におけるシュルレアリスムのイメージ

1	芥川(間所) 紗織	古事記より	1957年	染色・木綿	172.0×660.2cm	II
* 2	加納光於/大岡 信	アララットの船あるいは空の蜜	1971-72年	木・金属・ガラス他	68.0×44.2×22.8cm	II
3	草間弥生	ピンク・ボート	1992年	ファイバーワーク, ボート	90.0×350.0×180.0cm	II
* 4	杉戸 洋	Untitled	1991年	顔料, アクリル・紙	225.0×181.0cm	II
* 5	杉戸 洋	Red Eye	2000年	顔料, アクリル・紙	38.0×45.5cm	II
* 6	杉戸 洋	Elephant (p.p)	2000年	顔料, アクリル・紙	220.0×181.0cm	II
* 7	瀧口修造	デカルコマニー	1964年	水彩・紙	13.2×9.3cm	II
* 8	瀧口修造	デカルコマニー	1962年	水彩・紙	16.7×10.5cm	II
* 9	瀧口修造/中西夏之/岡崎和郎/ 荒川修作/武満 徹/多田美波/ 赤瀬川原平/加納光於/野中ユリ	漂流物 標本函	1974年	ミクストメディア	33.0×33.0×5.7cm	II
10	中村 宏	ブーツと汽車	1966年	油彩・キャンヴァス	130.5×162.0cm	II
11	三尾公三	冬野幻景	1988年	アクリル・板	180.0×240.0cm	II
12	三岸好太郎	海と射光	1934年	油彩・キャンヴァス	72.8×60.5cm	II
13	矢橋六郎	鎧	1939/77年	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0cm	II
14	ジョナサン・ポロフスキー	ベルリンの夢	1986年	リトグラフ・鉄, アクリル	86.4×108.6cm	II
15	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5cm	II
* 16	ロイ・リキテンスタイン	2つの絵画:ビーチボール(絵画シリーズ)	1984年	木版, リトグラフ, スクリーンプリント	94.0×91.0cm	II
* 17	ロイ・リキテンスタイン	人物(シュルレアリストシリーズ)	1978年	リトグラフ	59.7×38.7cm	II
18	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム, ミクストメディア	345.5×365.8×139.7cm	II
19	ジュニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出かけた後に描かれた/眠る少女	1992年	アクリル・絹/アクリル・キャンヴァス	2点1組.50.0×104.0cm.41.0×30.0cm	II

## メキシコ・ルネサンス:メキシコのシュルレアリスム

1	マニュエル・アルバレス・ブラボー	眠れる美女	1938-39年	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.4cm	I
2	マニュエル・アルバレス・ブラボー	木馬	1928年	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9cm	I
3	マニュエル・アルバレス・ブラボー	眼の寓話	1931年	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3cm	I
4	マニュエル・アルバレス・ブラボー	地震の天使 I	1957年	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3cm	I
5	マニュエル・アルバレス・ブラボー	夢想	1931年	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3cm	II
6	マニュエル・アルバレス・ブラボー	ピント合わせのための習作	1943年	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9cm	II
7	マニュエル・アルバレス・ブラボー	不在の肖像	1945(1987)年	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9cm	II
8	マニュエル・アルバレス・ブラボー	無口な洗濯女たち	1932年	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3cm	II
9	マリア・イスキエルド	旅人の肖像(アンリ・ド・シャティヨン)の肖像)	c. 1940年	油彩・キャンヴァス	160.0×190.0cm	I・II
10	マリア・イスキエルド	巡礼者たち	1945年	油彩・キャンヴァス	60.0×75.0cm	I・II
11	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938年	油彩・ブリキ	14.9×11.0cm	I・II
12	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932年	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9cm	I・II
13	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933年	フレスコ・石膏, ワイヤラス, 合板	161.9×201.3cm	I・II
14	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947年	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0cm	I・II
15	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962年	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2cm	I・II
16	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946年	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0cm	I・II
17	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948年	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4cm	I・II
18	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930年	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8cm	I・II

## 郷土の美術(前期):名古屋のシュルレアリスム

1	岡田 徹	ハンガリヤ狂詩曲	1957年	油彩・キャンヴァス	130.3×162.1cm	I
2	岡田 徹	カラスの祭典(A)	1976年	油彩・キャンヴァス	130.3×162.1cm	I
3	北脇 昇	鳥獣曼荼羅	1938年	油彩・キャンヴァス	45.5×33.4cm	I
4	後藤敬一郎	消滅する風景	1935-1940年	ゼラチンシルバープリント・紙	34.8×51.0cm	I
5	後藤敬一郎	帰らぬ舞台	1935-1940年	ゼラチンシルバープリント・紙	45.5×41.1cm	I
6	白木正一	生きもの	1950年	油彩・キャンヴァス	61.0×72.5cm	I
* 7	坂田 稔	危機	1938年	ゼラチンシルバープリント・紙	55.9×46.2cm	I
* 8	坂田 稔	[筍の断面による構成]	n.d	ゼラチンシルバープリント・紙	46.6×56.7cm	I
9	下郷羊雄	[写真による作品]	1939年	写真コラージュ・紙	40.0×32.3cm	I
10	下郷羊雄	超現実主義写真集『メセム属』	1939年	印刷・紙	18.1×12.8cm	I
11	下郷羊雄	伊豆の海	1937年	油彩・キャンヴァス	72.7×53.3cm	I
12	下郷羊雄	作品	1938年	油彩・キャンヴァス	72.8×60.8cm	I
13	田島二男	培養された貌	c. 1955年	ゼラチンシルバープリント・紙, パネル	49.8×40.1cm	I
14	田島二男	四つの眼	n.d	ゼラチンシルバープリント・紙, パネル	40.3×30.9cm	I
15	三岸好太郎	筆彩素描集《蝶と貝殻》	1934年	印刷(凸版墨刷り, 手彩色)・紙	30.2×22.8cm	I

16	山本惇右	[伽藍の鳥籠のバリエーション]	c. 1930-40年	ゼラチンシルバープリント・紙	30.4×25.6cm	I
17	山本惇右	ある人間の思想の発展…霧と寝室と	c. 1930-40年	ゼラチンシルバープリント, コラージュ・紙	28.1×20.7cm	I
18	山本惇右	[砂浜の裸婦]	1938年	ゼラチンシルバープリント・紙	15.7×24.6cm	I
19	吉川三伸	1940年追憶(三)	1976年	油彩・キャンヴァス	91.0×73.0cm	I

## 郷土の美術(後期):線描を楽しむ—浅野弥衛を中心に—

1	浅野弥衛	それは閉ざされている	1955年	油彩・キャンヴァス	65.1×90.8cm	II
2	浅野弥衛	無題	1967年	油彩・キャンヴァス	72.5×90.8cm	II
3	浅野弥衛	無題	1975年	油彩・キャンヴァス	91.0×91.1cm	II
4	浅野弥衛	無題	1975年	油彩・キャンヴァス	97.0×145.5cm	II
5	浅野弥衛	無題	1975年	油彩・キャンヴァス	72.8×72.5cm	II
6	浅野弥衛	無題	1976年	油彩・キャンヴァス	80.5×116.8cm	II
7	浅野弥衛	無題	1991年	油彩・キャンヴァス	72.5×91.0cm	II
8	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 5 鳥と椅子 No.1	1994(1973.8)年	ドライポイント・紙	41.0×41.0(23.9×18.0)cm	II
9	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 8 やすらぎ	1994(1973.8)年	ドライポイント・紙	41.0×41.0(23.9×17.9)cm	II
10	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 58 Work 8	1994(1974.5)年	エッチング・紙	41.0×41.0(17.9×23.9)cm	II
11	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 99 Work 36	1993(1975.2)年	エッチング・紙	41.0×41.0(17.8×23.7)cm	II
12	三岸好太郎	構図(暖炉のある静物)	1933年	油彩・キャンヴァス	46.0×53.5cm	II
13	熊谷守一	山椿	1960年	油彩・板	33.0×23.7cm	II
14	熊谷守一	冬の夜	1964年	油彩・板	24.0×33.3cm	II
15	北川民次	北川民次原作版画集「瀬戸十景」6 ろくろを廻す男	1937年	リノカット・紙	19.6×12.3cm	II
16	北川民次	北川民次原作版画集「瀬戸十景」7 山の中の窯場	1937年	リノカット・紙	11.9×16.0cm	II
17	北川民次	北川民次原作版画第二集 牛	1937年	木版・紙	8.0×11.0cm	II
18	北川民次	北川民次原作版画第三集 犬	1957年	セルロイド凸版・紙	11.5×13.0cm	II
19	鬼頭鍋三郎	団扇 福子	1971年	エッチング・紙	14.5×9.0cm	II
20	鬼頭鍋三郎	鼓 その恵	1975年	エッチング・紙	19.7×12.5cm	II
21	鬼頭鍋三郎	舞妓六選 6 先筈(光津江)	1976年	多色木版・紙	42.5×33.0cm	II



## (2)常設企画展 Thematic Exhibition

### ぶろだくしょん我S

Production-Gas: A Group of Vanguard

会期：2010年12月4日(土)～2011年2月6日(日)

#### 会場

常設展示室 3

#### 内容

「ぶろだくしょん我S」は、代表者を作らず、「我」の複数形として集団で活動を行い、1969年から1974年の5年間に、名古屋を主な活動場所として、旧来の枠組みを問い直す美術表現を試みたグループである。

ハプニングやパフォーマンスに類する表現を行った彼らの活動は、作品としての形態を今日とどめておらず、美術館で開催される初めての個展となる本展では、70年代前半の前衛的な美術活動のなかでも異色であった彼らの活動を、手元に残されていた作品の一部と記録資料によって紹介した。

全頁白紙の週刊誌を半年間にわたり制作販売した彼らの代表作である《週刊 週刊誌》(1971年)を中心に、作詞作曲実演をこなし、ジャケットのデザインと制作までもみずから行い、店頭販売とラジオ放送までも実現したレコード制作《我S DISK》(1970年)や、空気人形を特注制作して白川公園で実施した「人形参院選」(1974年)など、彼らの特質が顕著に表われた活動に加えて、最初期から休止にいたるまでの歩みを漏れなく紹介するとともに、その活動が生まれる契機となった時代の背景や関連が分かる解説テキストやキャプションを制作して、彼らの活動の意味と位置付けを再考する機会とした。

#### 解説リーフレット

A3 両面二つ折り

『「ぶろだくしょん我S」-虚構の時代の空虚な美術-』

(執筆編集:角田美奈子)

#### 関連事業

##### 解説会

日時:2011年1月15日(土) 14:00～

講師:角田美奈子(学芸員)

会場:講堂



会場風景



解説リーフレット

出品作品

1	In Play	1969年 8月 9日-12日	16×20inchマット装資料 3点 20×24inchマット装資料 2点 24×30inchマット装資料 1点 ボード貼り写真資料 2点
2	3億円事件カラー試乗会	1969年	20×24inchマット装資料 1点
3	栄広場へ!	1969年 8月15日	24×30inchマット装資料 1点
4	テレビ塔パフォーマンス	1969年 8月24日	20×24inchマット装資料 1点
5	ビル空間浮遊造形計画	1969年	24×30inchマット装資料 1点
6	白い布の道空間	1969年10月20日-11月20日	24×30inchマット装資料 2点 20×24inchマット装資料 1点
7	Conventionからの出発	1970年 2月28日-3月 2日	16×20inchマット装資料 1点 20×24inchマット装資料 1点 24×30inchマット装資料 1点
8	作品名不詳(於:こどもの国)	1970年 4月 1日-5月31日	16×20inchマット装資料 1点 20×24inchマット装資料 1点
9	我S DISK	1970年 8月初旬頃	DISK 装丁済み 1点 16×20inchマット装資料 1点 20×24inchマット装資料 1点
10	歩行者天国テープカットハプニング	1970年 9月 6日(推定)	参考展示:加藤久勝 スケッチ画《祝日曜遊歩道オープン》2010年 1点
11	映像会	1970年 9月	20×24inchマット装資料 1点 24×30inchマット装資料 1点
12	舞台美術制作	1970年11月	24×30inchマット装資料 2点
13	週刊 週刊誌	1971年 5月-10月	週刊 週刊誌 通刊24冊 2セット 納品書、請求書、返品伝票 各1冊 16×20inchマット装資料 3点 20×24inchマット装資料 2点 24×30inchマット装資料 4点
14		1971年	参考展示:中日新聞 3月28日付け記事 16×20inchマット装資料 1点
15	スカラ座人形設置	1973年 6月 2日	20×24inchマット装資料 2点
16	人形参院選	1974年 6月23日	16×20inchマット装資料 1点 20×24inchマット装資料 1点 空気人形 (男5体 女5体)
17		1997年	参考展示:日沖隆・川合英治共著「子どもの手を返せー主体性を育てるモノ作りー」新風舎 1点

## ポジション2011

### 米山和子展：ほどくかたち、つむぐけしき

POSITION2011 YORIKO YONEYAMA SOLO EXHIBITION

会期：2011年2月19日(土)～4月10日(日)

#### 会場

常設展示室 3

#### 内容

この地方で活躍する作家たちを紹介する企画の第1弾として、常設企画展「ポジション2011 米山和子展—ほどくかたち、つむぐけしき」を開催した。

埼玉県に生まれた米山和子(よねやま・よりこ)は、1983年に東京藝術大学大学院を修了、その後愛知に拠点を移し、作家活動を行ってきた。近年においては、和紙という素材を見出し、和紙によってかたどられた人体像やテディベアなどを制作しているが、それらは単なる人体や動物の姿というわけではなく、彼女が常々考えている「不在と存在」、「内側と外側」、「境界」についての思索を作品化したものといえる。紙には裏と表があるが、どちらが内側でどちらが外側か、また、人でいえば何処からが内で何処からが外か、相対するものとも、ものと空間の境目は何処か。作家は、そういったことについて考えながら、物と物、対比するものの境目のぎりぎりのところに働くバランスがものの形を刻一刻と留める様子を、作品によって表現しようとしていると言う。

この展覧会では、主に和紙による人体像を展示室の空間を生かしながら展示した。彼女の思索の跡を感じ取っていただくと同時に、儂さと強さを併せ持つ和紙による造形の美しさを鑑賞しながら、その神秘性を帯びた清浄な作品世界に触れていただきたいと考えた。

#### 出品作品

1 おもかげ 2011年 和紙、絹糸、綿



会場風景



チラシ

平成22年度は4本の特別展を開催しました。まず4月から7月にかけて開催したのが「静けさの中から：桑山忠明／村上友晴」です。この展覧会は桑山忠明と村上友晴という、日本画から出発しながらミニマルアートの文脈の中で世界的に高い評価を受けている作者二人の作品を連続個展というユニークな形式で開催したものです。いずれの作者にとっても、初期から最近作にいたる回顧展形式での初めての展覧会であり、対照的な作風ながら、静けさをたたえた空間の中で見るものに深い喜びを感じさせてくれました。また1階の展示室においては既存の壁面をほとんど使用せず、新たに建てられた直線的な長い壁面と、湾曲した壁面が、まったく新たな展示空間を生み出し、そこに展示された作品と一体となってこれまでになかった鑑賞体験を与えてくれました。

続いて8月の下旬から10月末にかけて、第一回目の「あいちトリエンナーレ」が開催されました。近年海外のみならず国内でも様々な国際芸術展が開かれていますが、3年に一度の開催を予定している「あいちトリエンナーレ」は日本では最大級の国際美術展となりました。「都市の祝祭」をテーマに、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町地区など、名古屋市内各所を舞台に繰り広げられた第一回展には、現代美術の部門だけでも70組以上のアーティストが参加しましたが、名古屋市美術館ではその内12組が展示を行いました。とかく分かりにくいと敬遠されがちな現代美術ですが、あいちトリエンナーレでは理屈抜きで楽しめる作品、意外性に富んだパフォーマンス等が展開された結果、子供から老人まで世代を超えた大勢の観客を引きつけることができました。また長者町地区など、既存の展示スペースを飛び出した空間での作品の展示は、美術による町の活性化にもつながり、国際芸術展の新

たな可能性を示唆しました。

12月のはじめから翌年2月にかけては、2002年に箱根にオープンしたポーラ美術館のコレクション展を開催しました。1万点近い数を誇るポーラ美術館のコレクションは、日本の洋画、日本画、東洋陶磁、日本の近現代陶磁、ガラス工芸、化粧道具など、実に多岐にわたりますが、核となるのは約400点にのぼるヨーロッパ近代絵画です。中でもモネやルノワールなどの印象派と、モディリアーニやシャガールをはじめとするエコール・ド・パリの作品は、質の高さにおいて日本でも群を抜いています。この展覧会ではその中から74点の名品を選び抜いてご紹介しました。来館者の多くは、初めてポーラ美術館のコレクションに触れたようですが、その充実ぶりと質の高さに感心されるとともに、これほど膨大なコレクションがほとんど一人の人物によって形成されたことに驚かされているようでした。

平成22年度の最後は2月下旬から4月上旬にかけて「没後120年 ゴッホ展」を開催しました。当館では平成8年にゴッホ展を一度開催していますが、今回はゴッホ美術館とクレラー＝ミュラー美術館のコレクションを中心にゴッホ作品約70点に加えて、ゴッホに影響を与えたミレー、モネ、ロートレックなどの作品約30点、さらにゴッホが参考にした浮世絵版画や絵画の手引き書など20点あまりの合計123点の出品作によって、ゴッホがいかにしてあの独特の様式に到達したのかを紹介しました。また代表作の一つ《アルルの寝室》を実物大で再現して、ゴッホの創作方法を探るなど、最新の科学的な研究成果も盛り込んでゴッホ芸術の核心に迫りました。会期中途に起こった東日本大震災により、来館者数は伸び悩んだというものの、それでも20万人を超える方々をお迎えし、変わらぬゴッホ人気の高さを知る結果となりました。

## 「静けさのなかから:桑山忠明/村上友晴」展

OUT OF SILENCE: Kuwayama Tadaaki / Murakami Tomoharu

会期: 2010年4月24日(土)~7月4日(日)

前期(桑山忠明展): 4月24日(土)~5月30日(日)

後期(村上友晴展): 6月1日(火)~7月4日(日)

### 会場

企画展示室1・2、常設展示室3

### 主催

名古屋市美術館、日本経済新聞社

### 後援

テレビ愛知、愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

### 協力

名古屋市交通局

### 観覧料

一般:1,100円、高大生:800円、小中生:400円

### 内容

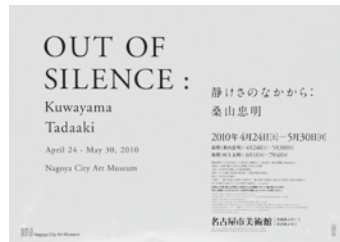
過剰な物質と過激な色彩に溢れた現代社会に生きている私たちは、日常生活のなかで常に喧騒に晒され続け、一瞬たりとも心身の休まる時間がない状況に置かれている。朝から晩まで絶え間なく時間に追われ、仕事も余暇も食事も睡眠も満足にできない毎日に忙殺されて、反射的な瞬時の判断や金銭的な損得の勘定ばかりが求められ、自己の存在や物事の本質について考えることも、優しい気持ちで愛を語り、お互いを思いやることすら忘れてしまっている。

このような現代社会において、貴重で稀有な「救済の場」となるのが美術館である。広々とした静かな空間のなかで、ゆったりとした時間の流れに身を任せて、自己の眼と心を開いて、美術作品と向かい合うことで、そこから密やかに現れてくるものや微かに聞こえてくるものを感じる体験は、持続的で強烈な刺激に摩滅、消耗した私たちの心身を快復するためには、何よりの良薬になる。

桑山忠明(1932~)と村上友晴(1938~)は、二人とも日本画から出発して、現在ではミニマル・アートの文脈のなかで、国際的にも高く評価されている美術家である。この二人の美術家が長い時間を掛けて、ゆっくりと制作の歩みを続け、少しずつ作品を積み重ねるなかで、築きあげてきた二つの世界(それは共通性を持ちながら対照的なものであるが)を連続して鑑賞することは、私たちが生きていくために大切なことを思い出し、それを取り戻す絶好の機会になるに違いない。

神社の境内や寺院の堂宇のように、教会の礼拝堂やモスクの聖堂のように、あるいは古代遺跡の神殿や砂漠の洞窟のように、二人の美術家の世界が広がった美術館の展示室のなかで、過ぎ去った時間に生きた人間の気配が漂う清らかな空気に満たされた「静けさのなかから」密かに現れてくるものと出会い、微かに聞こえてくるものと対話を交わすことを願っている。

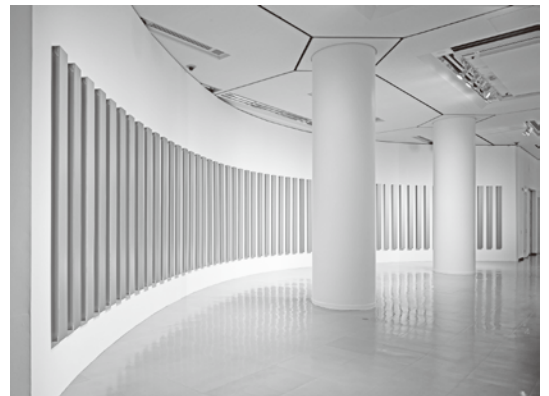
また、今回の展覧会は、新作を含めた連続個展という形式で開催するものがあるが、それぞれの美術家にとって初めての本格的な回顧展として、極めて貴重な機会になる。



ポスター-桑山



ポスター-村上



会場風景桑山



会場風景村上

### 図録

2分冊(各24.0×19.2cm/各60頁)

編集:名古屋市美術館(山田諭、原沢暁子、保崎裕徳)

発行:名古屋市美術館

### 関連事業

スペシャル・ギャラリー・トーク

日時:2010年4月24日(土)午後2時~

講師:桑山忠明

会場:名古屋市美術館・企画展示室1・2

### 展覧会解説会

日時:①前期:桑山忠明 2010年5月16日(日)午後2時~

②後期:村上友晴 2010年6月20日(日)午後2時~

講師:山田 諭(名古屋市美術館・学芸員)

会場:名古屋市美術館・講堂



## あいちトリエンナーレ2010 都市の祝祭

Aichi Triennale 2010 Arts and Cities

会期：2010年8月21日(土)～10月31日(日)

### 会場

愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど

### 主催

あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館

### 芸術監督

建畠哲(国立国際美術館館長)

### 特別協力

国際交流基金

### 後援

文化庁、オーストラリア大使館、ベルギー王国大使館、ベルギーフランドル交流センター、東京日仏学院

### 助成

Bundesministerium für Unterricht, Kunst und Kultur, オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム, Mexico Conacultaほか

### 協賛

社団法人愛知県医師会ほか

### 協力

カリモク家具株式会社ほか

### 会場提供

株式会社アサヒ ファシリティズほか

### 観覧料

一般：1,800円、大学生：1,300円、高校生：700円、小中生：無料

### 内容

国内外の先端的な現代アートを紹介する、3年に1度開催される国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」の第1回目が名古屋で開催された。あいちトリエンナーレの基本的な方針として、「美術を中心とした現代芸術の動向を国際的な視野に立って紹介すること－先端性」、「都市の祝祭としての高揚感を演出すること－祝祭性」、「現代美術を基軸にパフォーマンス・アートも積極的に取り込むこと－複合性」という3つの基本方針があげられ、第1回目のテーマ、「都市の祝祭 Arts and Cities」のもと、世界23カ国から131組のアーティスト・団体が参加しました。名古屋市美術館はメイン会場のひとつとなり、国内外の12名の作家の作品を展示した。



ポスター



図録

### 関連事業

#### トリエンナーレスクール

6月26日(土)午後2時～

講師：建畠哲(あいちトリエンナーレ2010芸術監督) 鳥袋道浩(あいちトリエンナーレ2010出品作家)

場所：2階講堂

参加者数：141名

#### 記念講演会(名古屋市美術館協力会との共催)

8月29日(日)午後2時～

「鳥袋道浩、自作を語る」

講師：鳥袋道浩(あいちトリエンナーレ2010出品作家)

場所：2階講堂

参加人数：180名

#### アーティストトーク

10月3日(日)午後2時～

「自作を語る」

講師：オー・インファン(あいちトリエンナーレ2010出品作家)

場所：2階講堂

参加人数：105名

#### パフォーマンス

10月24日(日)午後2時～

「Everyone is An EARTHIST」

出演：ナタリア・リボヴィッチ + 藤田央(あいちトリエンナーレ2010出品作家)

音楽：Nonaka Katsumi

場所：2階講堂

参加人数：200名

#### シンポジウム

10月29日(金)午後6時～

あいちトリエンナーレ2010ファイナルシンポジウム「みんなで話そうあいちトリエンナーレ」

講師：建畠哲(あいちトリエンナーレ2010芸術監督)ほか

場所：2階講堂

参加人数：120名

# ポーラ美術館コレクション展 —印象派とエコール・ド・パリ

Masterpieces from the Pola Museum of Art:  
Impressionists and Ecole de Paris

会期：2010年12月7日(火)～2011年2月6日(日)

## 会場

企画展示室 1・2

## 主催

名古屋市美術館、中部日本放送、中日新聞社、TBS、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

## 後援

フランス大使館、愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

## 協力

名古屋市交通局、日本通運

## 企画協力

テモアン

## 観覧料

一般：1,300円、高大生：900円、小中生：600円

## 内容

2002年9月に箱根仙石原に開館したポーラ美術館のコレクションは、良質なことで美術関係者から高い評価を受けている。化粧品の製造販売を行うポーラ・オルビスグループのオーナーであった鈴木常司(1930-2000)が40年の歳月をかけて収集したそのコレクションは、作家や作品について研究しながら収集したものといわれており、西洋の近代絵画においてとりわけ評価が高く、美術史の流れが分かるようになっている。

このひとときわ評価の高い西洋近代絵画から印象派とエコール・ド・パリの作品を厳選し、モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴッホ、スーラなど印象派15作家の作品36点とピカソ、モディリアーニ、シャガール、スーティン、フジタなどエコール・ド・パリ10作家の作品38点の合計25作家74点の名品を通して、印象派からエコール・ド・パリへとつづく具象表現の流れを紹介した。

## 図録

26.3×17.7cm 194頁

監修：木島俊介(美術評論家)、荒屋鋪透(公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館館長)

編集：公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館、横浜美術館、静岡市美術館、名古屋市美術館

発行：TBSテレビ



ポスター



図録

## 事前事業

特別講演会「印象派とは？」

日時：2010年12月5日(日)午後2時～4時

講師：ダイエゴ・カンディール(ジヴェルニー印象派美術館館長)

会場：2階講堂、無料

## 関連事業

記念講演会「ポーラ美術館の印象派とエコール・ド・パリ」

日時：2010年12月11日(土)午後2時～4時

講師：荒屋鋪透(ポーラ美術館館長)

会場：2階講堂、無料

## 解説会

日時：2011年1月29日(土)午後2時～4時

講師：角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

会場：2階講堂、無料

## 没後120年 ゴッホ展

Van Gogh: The adventure of becoming an artist

会期：2011年2月22日(火)～4月10日(日)

### 会場

企画展示室 1・2

### 主催

名古屋市美術館、中日新聞社、中部日本放送

### 企画協力

ファン・ゴッホ美術館、クレラー＝ミュラー美術館

### 後援

オランダ王国大使館、愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

### 特別協賛

第一生命保険、損保ジャパン

### 協賛

レクサス販売店(L 星ヶ丘、L 守山、L 高岳、L 植田、L 岡崎、L 豊田土橋、L 東海、L 一宮)、日本写真印刷

### 協力

日本通運、セコム、エールフランス航空、KLMオランダ航空、J R 東海、近畿日本鉄道、名古屋市交通局

### 観覧料

一般：1,500円、高大生：1,000円、小中生：600円

### 内容

1890年に37才の若さで夭逝したファン・ゴッホの没後120年を記念して開催された。ゴッホの二大コレクションを有するゴッホ美術館とクレラー＝ミュラー美術館の全面的な協力を得て、油彩、素描、版画など123点の作品によって、ゴッホ独特の様式がどのように成立したのかを探った。

どんな芸術家の場合も、独自の作風を確立するまでには様々な試行錯誤の過程がある。どれほど際立った個性であろうとも、その背後には積み重なる歴史と経験がある。だれもが一目でゴッホと見抜く、燃え上がる情念の結晶のようなあの独特の画風が確立したのは、彼が亡くなる僅か2年ほど前に過ぎない。画家になることを決意してからオーヴェールの地で自ら命を絶つまで10年の時しか持たなかったゴッホは、驚くほどの集中力と貪欲さであらゆるものを吸収しようとした。その経験の全てが血肉となり、あの独特の作風の中に昇華している。

今回のゴッホ展は、美術史上に燦然と輝く名作の数々を紹介するだけでなく、ゴッホはいかにしてゴッホとなったのかとの視点から、その創造の秘密に迫った。ゴッホの傑作70点に加えて、ミレー、モネ、ロートレック、ゴーギャンなど、彼に大きな影響を与えた作家たちの作品30点。さらに、ゴッホが収集した浮世絵や版画、絵画の手引き書などの資料類20点を加えて、その芸術の全貌を紹介した。



ポスター



図録

### 図録

29×22.5cm 248頁

編集：クリス・ストルウェイク、レンスカ・サウファー、国立新美術館、名古屋市美術館、東京新聞、中日新聞社、TBS

発行：東京新聞、中日新聞社、TBS

### 関連事業

#### ①講演会

日時：2011年3月6日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館講堂

講師：神谷浩(名古屋市美術館副館長)

演題：「ゴッホの見た日本」

#### ②解説会

日時：2011年3月20日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館講堂

講師：深谷克典(名古屋市美術館学芸課長)

演題：「アルルのファン・ゴッホ」

#### ③映画上映会

(1)「There Is No Blue Without Yellow And Orange ゴッホの足跡をたどるヨーロッパの旅と日本の印象」、フィンセント・ファン・デ・ワインガルト監督、ドキュメンタリー映画(2010年、約70分)

日時：2011年2月27日(日)午前10時～、午後2時～

場所：名古屋市美術館講堂

(2)アラン・レネ監督「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)

日時：2011年2月25日(金)、3月4日(金)、11日(金)、18日(金)

午後5時30分～、6時30分～

場所：名古屋市美術館講堂



名古屋市美術館では、美術鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、今年度も来館者の皆さんからの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しました。

一般向けには、特別展などでの講演会や解説会ですが、今年度は前半期に現代美術展が連続したこともあって、展覧会出品作家によるギャラリートークを数多く開催しました。「静けさのなかから：桑山忠明／村上友晴」展では、展示空間全体を作品とする桑山忠明が、展覧会初日の特別企画として、展覧会場を移動しながら観覧者（101名）に作家ならではの深いトークを展開しました。観覧者との直接の質疑応答もあって好評でした。「あいちトリエンナーレ2010」展では、名古屋市美術館協力会との共催により講演会「島袋道浩 自作を語る」と、お香による（実際に火をつけて焚く）作品を発表して話題となった韓国の作家オー・インファンによるアーティストトーク「自作を語る」を開催しました。また、展覧会最終日には、ファイナルシンポジウム「みんなで話そう あいちトリエンナーレ」を緊急開催して、芸術監督・建畠哲をはじめとした関係者が集まって話し合いました。後半期の「ポーラ美術館コレクション－印象派とエコール・ド・パリ」展では、ディエゴ・カンディール（ジヴェルニー印象派美術館・館長）による特別講演会「印象派とは？」と荒屋鋪透（ポーラ美術館・館長）による記念講演会「ポーラ美術館の印象派とエコール・ド・パリ」を、「没後120年 ゴッホ」展では、神谷浩（名古屋市美術館・副館長）の講演会「ゴッホの見た日本」と展覧会担当者でもある深谷克典（名古屋市美術館・学芸課長）の解説会「アルルのファン・ゴッホ」を開催しました。

名古屋市美術館のコレクションについて、学芸員が最新の研究成果を踏まえて、その作家と作品の魅力を語る美術講座・コレクション解析学では、名品コレクション展にあわせて展示された多彩な美術家たち（藤本由紀夫、元永定正、シャガール、ボロフスキー、マーチン）の代表作5点についての調査・研究の成果を紹介しました。

映画上映会としては、5月19日に急逝した荒川修作を追悼して、ドキュメンタリー映画「死なない子供、荒川修作」を特別上映しました。また、ゴッホ展においては、1948年のアカデミー賞短編映画賞を受賞した「ゴッホ」を上映しました。

また、「あいちトリエンナーレ2010」展のプレイベントとして、豪日メディアアートミーティング「オーストラリアと日本におけるメディアアート教育」を開催するとともに、会期中には、出品作家（ナタリア・リボヴィッチ＋藤田央）によるパフォーマンス「Everyone is An EARTHIST」を実施しました。

次に、子ども向けの教育普及事業として、夏休みの恒例となった「夏休み こどもの美術館」では、「どうやって、つくったの？」というタイトルで、名品コレ

クション展Ⅱの展示作品（20点）を対象にして、美術作品を制作するための手法や作家の創意工夫による独特の技法（星野真吾の「人拓」、名知聡子のエアブラシ）などを、映像資料（DVD）とともに紹介しました。講座としては、八島正明（画家）を講師とした「作った人と話してみよう」と、所蔵作品3点（ヴィアラ《無題》、野水信《コの記号》、ステラ《説教》）を対象にした「みて、かんがえて、ためしてみよう」を実施しました。

一方、名古屋市美術館の「キッズの日」として実施している美術鑑賞プログラムにおいては、「アート・ウォッチング」と「“おと”探検隊」を全6回実施しました。

学校との連携による教育普及事業としては、平成15年度から開始された「出前アート体験」では、「名画の秘密をさぐる」「美術から異文化を知ろう」「アートカードで学ぼう」などのプログラムを持って、学芸員やボランティアが出前授業（全8校）を行いました。また、学校の団体見学への対応においても、ボランティアによる常設展のガイドトークを受けた児童・生徒たち（名古屋市内の小中学校など20団体1,194名）は充実した美術鑑賞の体験をしています。また、「あいちトリエンナーレ2010」展において、中学校美術部合同鑑賞会（市内の7中学校の美術部員101名）を実施しました。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「キッズの日」の美術鑑賞プログラムの企画・実施、「出前アート体験」の「アートカードで学ぼう」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、総合案内と図書室における来館者への案内活動、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行ってきました。

今年度は、ボランティア（第1～6期）総計80名が活動しましたが、ボランティア活動開始10周年記念プロジェクトの体験を生かした自主的な活動として、名古屋まつり開催日（10月17日）に「名古屋まつりでもごと一日ギャラリートーク」を実施しました。

また、美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、「あいちトリエンナーレ2010」展の出品作家の記念講演会「島袋道浩 自作を語る」を美術館と共催するとともに、「作家を囲む会」を開催しました。また、同じく「あいちトリエンナーレ2010」展の出品作家・渡辺英司にオリジナル・カレンダーの作成を委嘱して、多数の新規会員の獲得に成果を挙げました。

この他に、美術書や画集・展覧会カタログが充実した図書室の利用者も年間40,000名に迫る数になっています。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」(第84～86号)とともに、『年報』『展覧会案内』を定期刊行しました。

# 1. 一般成人対象の事業

## (1) 講演会・解説会 ※開催順

月 日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者数
4月24日(土)	14時～	特別展「静けさのなかから:桑山忠明/村上友晴」 スペシャル・ギャラリートーク	桑山忠明(美術家)	企展1・2 常展3	101名
5月16日(日)	14時～	特別展「静けさのなかから:桑山忠明/村上友晴」 解説会—桑山忠明の芸術について	山田諭(当館学芸係長)	講 堂	60名
6月20日(日)	14時～	特別展「静けさのなかから:桑山忠明/村上友晴」 解説会—村上友晴の芸術について	山田諭(当館学芸係長)	講 堂	57名
6月26日(土)	14時～	あいちトリエンナーレ2010トリエンナーレスクール	建島哲(あいちトリエンナーレ2010芸術監督)、 島袋道浩(アーティスト)	講 堂	141名
8月29日(日)	14時～	あいちトリエンナーレ2010名古屋市美術館協力会との共催に よる講演会「島袋道浩 自作を語る」	島袋道浩(アーティスト)	講 堂	180名
10月3日(日)	14時～	あいちトリエンナーレ2010 アーティストトーク「自作を語る」	オー・インファン(アーティスト)	講 堂	105名
10月29日(金)	14時～	あいちトリエンナーレ2010ファイナルシンポジウム 「みんなで話そう あいちトリエンナーレ」	建島哲(あいちトリエンナーレ2010芸術監督)ほか	講 堂	120名
12月5日(日)	14時～	ポーラ美術館コレクション展特別講演会「印象派とは？」	ディエゴ・カンディール(ジヴェルニー印象派美術館 館長)	講 堂	75名
12月11日(土)	14時～	ポーラ美術館コレクション展記念講演会 「ポーラ美術館の印象派とエコール・ド・パリ」	荒屋鋪透(ポーラ美術館館長)	講 堂	155名
1月15日(土)	14時～	常設企画展「ぶろだくしゅん我S」解説会	角田美奈子(当館学芸員)	講 堂	65名
1月29日(土)	14時～	ポーラ美術館コレクション展解説会	角田美奈子(当館学芸員)	講 堂	135名
3月6日(日)	14時～	没後120年ゴッホ展講演会「ゴッホの見た日本」	神谷浩(当館副館長)	講 堂	230名
3月20日(日)	14時～	没後120年ゴッホ展解説会「アルルのファン・ゴッホ」	深谷克典(当館学芸課長)	講 堂	197名

\* 展覧会チケットまたは半券の提示が必要。

計 1,621名

## (2) 美術講座 コレクション解析学2010-2011

月 日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者数
5月30日(日)	14時～	藤本由紀夫《THE SEPARATED》	角田美奈子(当館学芸員)	講 堂	58名
7月25日(日)	14時～	元永定正《作品》	清家三智(当館学芸員)	講 堂	68名
9月26日(日)	14時～	シャガール《聖書》	保崎裕徳(当館学芸員)	講 堂	76名
1月30日(日)	14時～	ポロフスキー《ハンマリングマン》	原沢暁子(当館学芸員)	講 堂	94名
3月27日(日)	14時～	マーチン《無題No.3》	笠木日南子(当館学芸員)	講 堂	55名

計 351名

第1回: 5月30日(日)午後2時～

作品: 藤本由紀夫《THE SEPARATED》2005年

演題: 「分かれたもの。もしくは影を読むこと」

講師: 角田美奈子(当館学芸員)

内容: 音楽家である藤本由紀夫(1950-)は音の理論を美術の手法で作品にしている。《THE SEPARATED》は影を見る作品であり、「ものを見る」ことだけでなく、顔縁のある絵画を模した形態をとることで「絵画を見る」ことをも問い返している。藤本は、自身の作品を「フィロソフィカル・トイ(哲学的玩具)」と述べている。絵画でも彫刻でもなく、「見る」ことについて考えるための「もの」=「オブジェ」である作品が提起することから作家の創作についての思考や手法とあわせて紹介した。



チラシ

第2回：7月25日(日)午後2時～  
 作品：元永定正《作品》1961年  
 演題：〈いろ〉と〈かたち〉と自然の力と  
 講師：清家三智(学芸員)

内容：元永定正(1922-)は戦後日本の前衛美術をリードした団体、具体美術協会に参加した作家の一人である。1971年に脱退するまでの間「人の真似をするな、今までにない新しいものをつくれ」という吉原治良のモットーに従って発表した絵画作品は、わずかな傾斜をつけた画面に絵具を流すやり方で描かれた。一見即興的に映る制作方法は、実際には作品のベースとなるデッサンや下描きを欠かさず行い、画材の特性を熟知した上での慎重な作業の連続であったが、重力など自然の力が引き起こした偶然による形の生成や色のにじみ具合に対しても、作家がよいと思ったものは率先して取り入れる柔軟な姿勢が貫かれている。半世紀以上抽象絵画を制作し続ける画家の〈いろ〉と〈かたち〉に対する考えを探るとともに、「自分にしかできない表現」について改めて考えた。

第3回：9月26日(日)午後2時～  
 作品：マルク・シャガール《聖書》版画集刊行1956年  
 演題：その古くても新しい魅力  
 講師：保崎裕徳(当館学芸員)

内容：シャガールは、ベラルーシのシュテートル(ユダヤ人街)に生まれ、幼少期を過ごした。幻想的と評されることの多い彼の作品には、しかしユダヤ教の世界観という確かな背景があるともいわれている。ヴォラールという画商から聖書の版画集を出版するという依頼をうけて、シャガールは自身の聖典(旧約聖書)の図様化にどのようにとり組んだのか。シャガールがユダヤ教徒であったことを念頭におきながら、ルネサンスやバロックの画家たちの先例と比較し、シャガールの聖書における神やモーセやダヴィデの描かれ方の特異性、またシャガールの作品に繰り返し登場する新月や花嫁といったモチーフの意味について検証した。

第4回：1月30日(日)午後2時～  
 作品：ジョナサン・ポロフスキー《ハンマリングマン》1982年  
 演題：“Everything is connected. (すべてのものごとは繋がっている)”

講師：原沢暁子(当館学芸員)  
 内容：名古屋市美術館のロビーにある黒い巨人《ハンマリングマン》は、ハンマーを振り上げては下ろす、という動作をひたすら続けている。ジョナサン・ポロフスキー(1942-)は、私たちが日々続けている「働く」という営みを、この像で象徴的に表した。彼は退屈な繰り返しとしての労働ではなく、前向きな意味を持つ労働をここに表現したかったと言う。“Everything is connected. (すべてのものごとは繋がっている)”と語り、芸術によってそのことを表現しようとしてきたポロフスキーが創り出した《ハンマリングマン》が意味するものについて検討するとともに、彼の芸術のその後の展開についても話しながら、現代の私たちにポロフスキーが語りかけているものについて考えてみた。

第5回：2011年3月27日(日)午後2時～  
 作品：アグネス・マーチン《無題 No. 3》1992年  
 演題：感情的なミニマリズム  
 講師：笠木日南子(当館学芸員)

内容：線とグリッドといった最小限の造形要素を非常に繊細な色彩でもって描きだすアグネス・マーチンはミニマリズムの代表的な作家として知られている。その作品世界は、パターンの繰り返しといった表現方法も含め、幾何学的とも言えるような抽象的な形態によって構成されているが、じっと見ていると、深い精神性や人間的な感情をも感じられ、その感性からマーチンは抽象表現主義の作家と位置づけられることもある。作品の出発点に感情というものが深く関わっているのではないかと、マーチンが残した詩のような美しい言葉をもとに、作家は何を表現しようとしたのか、作品は作家にとってどのような意味を持っているのかということを探った。

### (3)上映会

月 日	時刻	内 容	場 所	参加者数
11月21日(日)	14時～	荒川修作追悼；『死なない子供、荒川修作』上映会	講 堂	165名
2月25日(金)	17時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	135名
2月25日(金)	18時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	36名
2月27日(日)	10時～	ゴッホ展関連「There Is No Blue Without Yellow And Orange ゴッホの足跡をたどるヨーロッパの旅と日本の印象」(ドキュメンタリー、2010年、約70分)	講 堂	170名
2月27日(日)	14時～	ゴッホ展関連「There Is No Blue Without Yellow And Orange ゴッホの足跡をたどるヨーロッパの旅と日本の印象」(ドキュメンタリー、2010年、約70分)	講 堂	170名
3月4日(金)	17時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	83名
3月4日(金)	18時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	41名
3月11日(金)	17時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	120名
3月11日(金)	18時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	40名
3月18日(金)	17時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	115名
3月18日(金)	18時半～	ゴッホ展関連「ゴッホ」(1948年、アカデミー賞短編映画賞、18分)、「ゴーギャン」(1950年、13分)	講 堂	48名

計 1,123名



#### (4)パフォーマンス・ワークショップ

月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者数
10月24日(日)	13時半～	あいちトリエンナーレ2010 出品作家によるパフォーマンス「Everyone is An EARTHIST」	ナタリア・リボヴィッチ+藤田央(アーティスト)、音楽: Nonaka Katsumi	サンクンガーデン	200名

#### (5)その他

月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者数
6月5日(土)	14時～	豪日メディアアートミーティング「オーストラリアと日本におけるメディアアート教育」オーストラリア作家によるプレゼンテーションと、豪日におけるメディアアート教育の現状と今後の展望について(あいちトリエンナーレ2010イベント)	アレッシオ・カヴァレロ(ACMIオーストラリア動画センターシニアキュレーター) トロイ・イノセント(モナッシュ大学マルチメディア・デジタルアート科教員) グレッグ・モア(RMITロイヤルメルボルン工科大学空間情報建築研究室教員) 茂登山清文(名古屋大学大学院情報科学研究科/情報文化学部准教授) 関口敦仁(IAMAS岐阜県立情報科学芸術大学院大学長) 竹葉丈(名古屋美術館学芸員) マリ・ヴェロナキ(シドニー大学ソーシャルロボティクスセンター共同所長)	講 堂	54名

## 2. 子ども対象の事業

### (1)学校休業日の体験活動の推進

平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。平成22年度は「キッズの日」として年間6回のプログラムを開催した。本年度は新プログラムとして「“おと”探検隊」をスタートさせた。これは平成20年度に白川公園内で制作・設置され、平成21年度に寄贈された鈴木昭男の作品《点音in 白川公園》を紹介することをねらいとしたものである。

#### ①こどものためのワークシート(申込不要)

- 日 時 毎週土曜・日曜・祝日及び学校長期休業期間(年154日間) 随時
- 対 象 小中学生
- 延べ実績 2,526部
- 参加方法 当日常設展示入口で随時受付
- 内 容 名品コレクション展Ⅰ～Ⅲの各展示内容にあわせて展示作品をじっくり鑑賞するためのヒントやクイズを載せた「こどものためのワークシート」を配布し、取り組んでもらうことで作家や作品への理解を深めた。

#### ②アート・ウォッチング(葉書による事前申込)

- 対 象 小学生
- 定 員 各回30名
- 参加費 1名50円
- 会 場 常設展示室、講堂、キッズコーナーなど

##### a) 美術館をウォッチングする

- 日 時 5月29日(土)10:00～12:00
- 参加者数 22名
- スタッフ (学芸員)清家三智、原沢暁子(ボランティア)12名
- 内 容 美術館は何のための場所か、館内を探検しながら自分たちで見て、聞いて、考えを拡げ深めていくプログラム。前半は単なるバックヤードツアーでは

なく、館内の設備をくわしく観察することから「どうして美術館には開かない窓しかないのか」、「火事になったらどうするのか」、「なぜ収蔵庫の鍵はこんなにたくさんあるのか」などの疑問を参加者に抱かせ、館内で働いている人々の役割を考えながら学芸員と話し合う活動を通して、「宝物(=美術作品)を守る」という美術館の社会的役割への理解を深めた。

プログラムの後半では、3つのグループに参加者を分け、美術館の建物そのものが黒川紀章という建築家の一つの作品であるという特徴を生かし、スタッフのサポートの下、館の内外に見られるさまざまな意匠に目を向ける活動を展開した。



b) ステラ《説教》をウォッチングする

日時 6月26日(土)10:00~12:00

参加者数 28名

スタッフ (学芸員)清家三智  
(ボランティア)10名

- 内容 ①50色の色紙を赤、黄、青などの系統別に分類し、見比べながら、色の濃淡や明暗、鮮やかさなどの微妙なちがいを言葉で説明する練習をした。また複数の色紙の組み合わせを変えて見せながら、隣り合う色によって、見え方や印象が変わることを確認した。
- ②参加者とスタッフ全員で常設展示室に移動し、フランク・ステラ《説教》を鑑賞。作品に使われている色を観察し、どんな特徴があるか、どんな色と色が隣り合っているか、それによってどんな印象を受けるかなどについて意見を交換し、もし異なる色の組み合わせで構成されていたら、作品全体の印象はどう変わると思うか、想像させた。
- ③5~6人のグループに分かれて展示室の他の作品を鑑賞し、各自が使われている色の特徴や色の組み合わせから印象に残る作品を選び、それぞれ気づいたことや感想等を発表しあった。

c) 普段のものの見方で、美術作品を見直してみる

日時 11月23日(火祝)10:00~12:00

参加者数 21名

スタッフ (学芸員)清家三智  
(ボランティア)10名

- 内容 ①「遠くにあるものは小さく、近くにあるものは大きく見える」「同じものでも上から見下ろしたときと、下から見上げたときで見え方がちがう」など、生活の中で当たり前体験しているモノの見え方について実例を挙げながら参加者と確認した。
- ②常設展示室へ移動し、5つのグループに分かれてそれぞれに作品をよく観察し、先の話ヒントに、画家はどの視点から描いたのか(対象を見つめる視点の位置・高さ)や、普段のモノの見え方とは異なるおかしい部分などを探し出した。なお、鑑賞に選んだ作品は:モディリアニ《おさげ髪の少女》、北川民次《トラルパム霊園のお祭り》、キーパー《シベリアの王女》、藤田嗣治《自画像》、河原温《カム・オン・マイ・ハウス》、イスキエルド《巡礼者たち》、の計6点。

d) 美術館をウォッチングする

日時 1月29日(土)10:00~12:00

参加者数 20名

スタッフ (学芸員)清家三智  
(ボランティア)8名

- 内容 美術館は何のための場所か、館内を探検しながら自分たちで見て、聞いて、考えを拡げ深めていくプログラム。前半は単なるバックヤードツアーではなく、館内の設備をくわしく観察することから「どうして美術館には開かない窓しかないのか」、「火事になったらどうするのか」、「なぜ収蔵庫の鍵はこんなにたくさんあるのか」などの疑問を参加者に抱かせ、館内で働いている人々の役割を考えながら学芸

員と話し合う活動を通して、「宝物(=美術作品)を守る」という美術館の社会的役割への理解を深めた。

後半は参加者を3つのグループに分け、スタッフのサポートの下、それぞれ美術館の建物に使われている「色」や「椅子の形」に注目したり、展示室の中で宝物を守る工夫について観察する活動を行った。

③“おと”探検隊(葉書による事前申込)

対象 小中学生とその保護者

定員 各回10組

参加費 無料

会場 講堂、白川公園、館内など

内容 目には見えない“音”を意識するための練習を参加者全員と一緒にいった後で、2009年に設置された鈴木明男の作品《点音in 白川公園》を体験しながら、身近な存在である“音”について考えを深めることをねらいとしたプログラム。実際には“音”だけでなく、空間の広さ/狭さやその日の気候、身の回りの環境などを五感を使って丁寧に感じ取る機会となり、参加者に白川公園という場の面白さや魅力に気づいてもらうことができた。

日時 10月30日(土)10:00~12:00

※台風による悪天候のため、屋内での活動に内容を一部変更して実施。

参加者数 10名

スタッフ (学芸員)清家三智  
(ボランティア)10名

日時 2月26日(土)10:00~12:00

参加者数 25名

スタッフ (学芸員)清家三智  
(ボランティア)10名

## (2)夏休みこどもの美術館

平成22年度は「どうやって、つくったの?」と題し、展示とその内容に即した鑑賞補助ワークシートおよびワークショップを通して、美術作品をつくるためのさまざまな手法や、その選択をした作家の創意工夫に思いを馳せることで、作品を見る視点や画家・作家と呼ばれる人に対する理解を深めるとともに、制作手法に対する考え方を拓くことをねらいとした。

実施時期が重複する特別展の影響で、今回は常設展示室1・2の一部を利用して所蔵作品の展示を行う形となった。制約も多かったが、特に夏休みを意識せずに来館した一般の方にも当館で長年実施している教育普及プログラムを知ってもらうきっかけとなった。



**タイトル** 夏休みこどもの美術館2010「どうやって、つくったの?」  
**期間** 7月17日(土)～9月20日(月祝)  
**会場** 常設展示室1の一部および常設展示室2  
**企画** 清家三智(学芸員)  
**協力** 豊川地域文化広場 桜ヶ丘ミュージアム、Tee's豊橋ケーブルネットワーク、高畑郁子氏

### ①展示

**内容** 名古屋市美術館所蔵作品の中から、制作手法を考えるための7つのヒントに沿って20点を選び、展示した。また、一般になじみのない制作手法を理解する手助けとして映像資料(DVD)2点もあわせて展示し、開館時間中に常時上映した。

**出品リスト** 平成22年度名品コレクション展Ⅱ(前期)の“現代の美術”および“郷土の美術”を参照のこと

### 資料DVD

#### 1) 「星野真吾 制作の記録」

**内容** 戦後日本画の前衛運動を展開したグループ、パンリアルで活動した星野真吾(1923-1997)は、実父の死をきっかけに生まれたという“人拓”による作品で知られる豊橋出身の日本画家である。DVDは晩年のアトリエでの制作風景を淡々と追ったものだが、手元のクローズアップが多く、さまざまな道具・手法を用いながら一つ一つのモチーフを仕上

げていく過程が丁寧に映し出されている。

**制作・編集** Tee's 豊橋ケーブルネットワーク  
**制作年** 1997年  
**時間** 約30分

※上映にあたっては豊川地域文化広場・桜ヶ丘ミュージアムから資料を借用した。

#### 2) 「エアブラシについて ～名知聡子 制作風景～」

**内容** エアブラシ/コンプレッサーは一般に最も馴染みのない描画道具だが、空気圧によって液体を噴霧する原理は、生活道具として使用しているスプレーと同じである。エアブラシを使うことでどのような表現が可能になるのか、エアブラシの利点を分かりやすく伝えるため、名古屋を拠点に活動している若手作家・名知聡子さんに協力を仰ぎ、制作手順を時系列で紹介する映像資料を制作した。簡単なインタビューも交え、作家の表現したい世界と、それを可能にする手法との密接なつながりにも触れた。

**制作・編集** 名古屋市美術館  
**時間** 約7分  
**撮影協力** 名知聡子(画家)

### ②事前申込制の講座

「作った人と話してみよう」～どうして、そのつくり方にしたの?～

**実施日** 7月31日(土)・8月1日(日)  
 いずれも10:00～15:00

**講師** 八島正明(画家)  
**スタッフ** (学芸員)清家三智、保崎裕徳  
 (調査員)山田哲夫

**対象** 小学4年生～一般

**参加費** 300円

**参加者数** 30名(2日間のべ)

**内容** キャンヴァス一面に塗った黒い絵具を木綿針で“ひっかく”という独自の技法で40年近く絵画作品を制作している八島正明氏を講師に招き、常設展に展示された自作の前で、絵描きになろうと思ったきっかけや、独自の技法を編み出した経緯、白と黒だけの表現にこだわる理由などの話を聞いた後、「夏の思い出」をテーマにひっかく技法で絵画作品を制作した。

クレヨンを用いたひっかき絵は幼稚園などでもよく行われているが、今回はひっかくことでどんな表現効果が得られるかを考えながら制作を行った。またワークショップという形式で作家本人から直接話を聞いたり、一緒に制作する時間を通して意見交換をするなど、表現活動を行っている人との交流の時間を大切にしたい。

### ③当日受付の講座

「みて、かんがえて、ためしてみよう」～どうやって、つくったの?～

**実施日** 8月5日(木)、6日(金)、17日(火)、18日(水)  
 いずれも1日2回  
 午前10:30～12:00/午後1:30～3:00

**対象** 小中学生  
**参加費** 500円  
**定員** 各回先着15名



#### a) クロード・ヴィアラ《無題》編

**実施日** 8月5日(木)・6日(金)  
**講師** (学芸員)清家三智、保崎裕徳  
**スタッフ** 名古屋市美術館ボランティア 7名(2日間のべ)  
**参加者数** 49名(2日間のべ)  
**内容** カーテンやテントなどを支持体に用い、空豆状の形態を柄や模様のように一定の規則性にもとづいて配置する作風で知られるフランスの作家クロード・ヴィアラの《無題》を常設展示室で鑑賞した後、自分だけのしるしとなるような不思議な形の型を作成し、ステンシル/スタンプの要領で帆布に繰り返し捺した。  
帆布の色と使う絵具の色との組み合わせや自分の型を布地(=画面上)にどう配置するかなど、作品の造形的な良さや面白さを考えながら作家の制作方法を追体験することで、より深い理解を促した。

#### b) 野水信《コの記号》編

**実施日** 8月17日(火)  
**講師** 井垣理史(アーティスト、名古屋学芸大学助教)  
**スタッフ** (学芸員)清家三智、保崎裕徳(大学生)5名  
**参加者数** 28名(1日のべ)  
**内容** 戦後名古屋を中心に活躍した抽象彫刻家、野水信の《コの記号》は全く同じ形・大きさのコの字型の鉄板6枚を組み立てて作られた立体作品である。常設展示室でそれぞれの鉄板に刻まれた切り込みの位置を確認した後、パズルの要領で作品と同じ形になるよう、6枚の紙製パーツを組み合わせた。  
漫然と見ているだけでは見過ごしてしまう作品の構造をミニチュアによる再制作を通して理解し、作者のアイデアの獨創性や面白さに気づくことをねらいとした。

#### c) フランク・ステラ《説教》編

**実施日** 8月18日(水)  
**講師** 井垣理史(アーティスト、名古屋学芸大学助教)  
**スタッフ** (学芸員)清家三智、保崎裕徳(大学生)5名  
**参加者数** 24名(1日のべ)  
**内容** アメリカの画家フランク・ステラの《説教》は、彩色した複数のアルミニウム板のパーツに反りや曲げの加工を施し、立体的に組み合わせた作品で「レリーフ・ペインティング」と呼ばれる。用意された端材の鉄板から面白い形を見つけ出し、常設展示室で《説教》を鑑賞してイメージを膨らませたり、作品の構造をよく観察したりした後で、グルーガンを使って各自がオリジナル作品を組み立てた。作る楽しさだけでなく、自分が頭に思い描いたイメージを立体的に組み立てていく難しさと面白さを体験した。

#### ④いつでも出来る活動

##### a) 「こどものためのワークシート 夏休みこどもの美術館編」

**期間** 7月17日(土)～9月20日(月祝)の会期中毎日  
**利用数** 1,146部

**内容** 今回の展示テーマについて関心を深め、よりじっくり作品を鑑賞してもらうために、展示を見るヒントやクイズを載せたワークシートを制作し、こどもを主とする来館者に自由に利用してもらった。

##### b) 「あつめて、ならべて」

**配布期間** 7月17日(土)～9月11日(土)

**掲示期間** 7月24日(土)～9月20日(月祝)

**参加作品** 8通

**内容** 今回展示したベッヒャーやミルロイの作品は、「どんな物をあつめて、どんな規則に従って並べるか」が表現において重要なポイントとなっている。これらの作品を鑑賞した来館者に、家に帰ってから形や色など共通点をもつ何かを集め、並べた様子を写真に撮って送ってもらうというプログラムを行った。コメントなどを書き込む専用の応募用紙と送付用封筒を展示室内に用意し、美術館へ送られてきた作品は地階キッズコーナーやロビーの掲示スペースで紹介した。

結果的に美術館宛に作品を送ってきた参加者は決して多くはなかったが、用意した300枚の応募用紙が会期終了を待たずに無くなったことは、少なくとも展示作品を鑑賞することで何らかの刺激を受け「自分もやってみよう」と思い立った来館者の多さを示す指標として受け止められる。参加者が来館した時に提供できる活動のバリエーションの一つとして、今後も機会があればプログラムに積極的に組み込みたい。

#### (3)その他

##### あいちトリエンナーレ2010 キッズワークシート制作

あいちトリエンナーレでは小・中学生の学校からの団体見学に対応するため、愛知県美術館会場と名古屋市美術館会場の2箇所に限ってこども向けワークシートを作成することになり、トリエンナーレ事務局の教育普及チームの一員として制作に携わった。

ワークシートは、誘導がなくても児童・生徒が自力で作品を探しながら回れるよう、各館の会場にある作品を順路に沿って紹介する形式をとった。うち一部の作品については、鑑賞を深めるための問いかけを載せ、各自の意見を書きとめる欄を設けた。またワークシートの一部を切り取れるようにして、作品を見て抱いた感想や作者への質問を投票する『発見!おしえタイ』というプログラムを実施し、会場内で一般来館者へ紹介したほか、出品作家に質問への回答を依頼するなどして、会場を見て回った後にも作品や作家と出会った喜びや興味が持続するような働きかけを行った。

##### あいちトリエンナーレ キッズワークシート

**サイズ** A3両面印刷(各面に愛知県美術館会場、名古屋市美術館会場の内容)

**部数** 1万枚

**対象** 平日に学校団体で来場および休日に個人単位で来場した小中学生

### 3. 学校対象事業

#### (1) ボランティアによる学校団体向けガイドトークの実績

No.	日 時	曜日	団 体 名	見学者数 (生徒数)	引率者数	対応ボラン ティア数
1	4月30日	金	愛知県あま市立正則小学校3年生	60	3	8
2	6月3日	木	名古屋市立日比野中学校2年生	13	0	2
3	6月4日	金	名古屋市立長根台小学校5年生	89	4	9
4	6月9日	水	岐阜県立岐阜工業高等学校	39	2	4
5	6月24日	木	岐阜県立岐阜各務野高等学校	80	5	8
6	6月25日	金	名古屋市立神宮寺小学校6年生	46	2	5
7	6月30日	水	名古屋市立吹上小学校4年生	19	2	3
8	7月24日	土	名古屋市立田代小学校トワイライトスクール	16	3	4
9	9月3日	金	名古屋市立柴田小学校6年生	30	2	4
10	9月14日	火	名古屋市立飯田小学校3年生	70	2	7
11	9月15日	水	長久手町立北小学校3年生	135	4	8
12	9月22日	水	名古屋市立旭丘小学校5年生	87	3	5
13	10月27日	水	名古屋市立常安小学校5年生	63	2	8
14	11月17日	水	名古屋市立常安小学校6年生	72	2	8
15	1月12日	水	名古屋市立笠東小学校4年生	77	3	8
16	1月20日	木	名古屋市立栄小学校4年生	22	2	3
17	1月21日	金	名古屋市立宮根小学校4年生	74	2	8
18	1月21日	金	名古屋市立稲永小学校4年生	82	3	8
19	2月8日	日	名古屋市立山根小学校5年生	45	1	6
20	2月16日	水	名古屋市立極楽小学校5年生	75	3	8
計				1,194	50	124



## (2)アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

### <保管校一覧>

区	学校名	ケース数	配布ケース番号
千種区	東山小学校	3	1、2、3
	(千種区)	3	4、5、6
北区	飯田小学校	4	7、8、9、10
西区	榎小学校	3	11、12、13
中村区	中村小学校	3	14、15、16
中区	大須小学校	3	17、18、19
昭和区	北山中学校	3	20、21、22
瑞穂区	菡山中学校	3	23、24、25
熱田区	白鳥小学校	3	26、27、28
中川区	はとり中学校	4	29、30、31、33
港区	東港中学校	3	34、35、36
南区	柴田小学校	3	38、39、40
守山区	森孝中学校	4	42、43、44、45
緑区	太子小学校	5	46、47、48、49、50
名東区	貴船小学校	4	51、52、53、54
天白区	御幸山中学校	4	55、56、57、58

### <美術館からの直接貸出>

No	借用者	ケース数
1	栄トワイライトスクール	1
2	刈谷市立小高原小学校	1
3	名古屋市立中央高等学校	1
4	岡山県立美術館	1
5	大治町立大治西小学校	1
6	岡崎市教育委員会学校指導課	1
7	愛知教育大学	2
8	長久手町立北小学校	1
9	愛知工業大学情報電子専門学校	1
10	(市内) 笠東小学校	1
11	岡崎市立本宿小学校	1
12	東郷町立高嶺小学校	1

貸出件数：12 貸出数：13

### <保管校から貸出>

区	貸出先	ケース数
千種	東山小学校	1
	若水中学校	1
北	西味鏡小学校	2
	清水小学校	2
	辻小学校	1
西	山田小学校	3
中	(西区) 山田小学校	3
昭和	円上中学校	3
瑞穂	汐路小学校	1
	陽明小学校	2
熱田	千年小学校	2
	大宝小学校	1
港	神宮西小学校	1
	港西小学校	1
	稲永小学校	1
南	宝南小学校	2
守山	吉根小学校	1
	志段味小学校	2
緑	桶狭間小学校	1
	太子小学校	1
	黒石小学校	1
	小坂小学校	2
	太子小学校	1
	常安小学校	1
	太子小学校	3
	太子小学校	1
太子小学校	1	

区	貸出先	ケース数
名東	貴船小学校	2
	貴船小学校	2

貸出件数：29 貸出数：46

### (3)出前アート体験

#### ①中川区・八幡小学校

プログラム名 美術から異文化を知ろう  
日 時 7月12日(月)9:45~10:30、10:45~11:30  
場 所 特別活動室  
対象学年 6年生4クラス130名  
講 師 (学芸員)山田諭  
授業内容 フリーダ・カーロの《死の仮面を被った少女》の作品図版を提示して、児童に何が描いてあるか画面全体から細部に到るまで観察して、発表させた後、とくにメキシコにおける「骸骨」の(イメージに託された風習や死生観の)意味をはじめとして、日本とメキシコとの交流関係について、さまざまな資料や作品図版(スライド)を使って解説した。

#### ②緑区・太子小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 9月24日(金)10:45~11:30  
場 所 クラス教室  
対象学年 6年生2クラス64名  
講 師 (学芸員)山田諭  
授業内容 モテリアーニの《おさげ髪の少女》の作品図版を提示して、児童に何が描いてあるか画面全体から細部に到るまで観察して、発表させた後、同じモデルを描いた作品などの図版と比較して観察させることで、それぞれの作品の特徴(共通点と相違点など)について考えさせた。また、ギリシャ建築の彫像(カリアティード)の写真図版を見せて、モテリアーニの表現技法の源泉についても解説した。

#### ③北区・東志賀小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 9月27日(月)10:50~11:30  
場 所 フリースペース  
対象学年 6年生2クラス63名  
講 師 (学芸員)原沢暁子  
授業内容 名古屋市美術館が所蔵している作品の中から、オーストリアの画家フリーデンスライヒ・フンデルトワッサーの《837郷愁の紫色の屋根》を採り上げ、画像を見せながらその作品のもつ意味や魅力について話し、作品が伝えようとしていることについて考えてもらった。最初に作品をじっくり見てもらうことから始め、この絵の中の二つの「秘密」について考えてもらった。秘密その1:なぜぐにゃぐにゃの線を使うのか。秘密その2:なぜ屋根に植物の茂った家を作ったのか。この二つについて、どう思うかを筆記してもらった。その後、フンデルトワッサーの他の作品も見ながら彼が作品に込めたもの(自然環境の保護など)に触れ、二つの秘密についての解答を示すような話をした。最終的に、もう一度作品をじっくり見て、この絵を見た感想を何人かに発表してもらい、授業を終えた。

#### ④瑞穂区・汐路小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 11月18日(木)9:45~10:30、10:45~11:30  
場 所 多目的室  
対象学年 3年生4クラス119名 \*2クラスずつ授業  
講 師 (学芸員)清家三智  
スタッフ (ボランティア)8名  
授業内容 児童を8つのグループに分け、各グループにスタッフ1名が付き、以下の活動の運営・支援を行った。

#### 1) たんていゲーム

アートカード60枚を場に広げる。学芸員が掲示する、作品の一部を拡大した図版をよく観察し、色や形などをヒントに、児童は正解となる作品のアートカードを探す。作品の細部まで詳しく観察するウォーミングアップとして行った。

#### 2) グループディスカッション

(アートカードからいったん離れ)「もし教室に美術作品を飾るとしたら、どんな作品がよいか」について、ふだん教室で過ごしている時間にどんなことを考えたり感じたりしているか、思い出しながら自由に話し合った。十分に想像が広がったところで再びアートカード60枚を場に広げ、作品をじっくり見比べながら、各自が教室にあったらいいなと思うカードを1~2枚選んだ。その後、各自が支持する作品と選んだ理由についてグループ内で発表しあい、それぞれが自分のクラスに対して思っていることや、自分の目で発見した作品の良さ・面白さ、作品から感じたメッセージなどについて語り合った。

#### ⑤千種区・宮根小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 1月14日(金)9:50~10:35  
場 所 プレイルーム  
対象学年 4年生2クラス70名  
講 師 (学芸員)徳崎裕徳  
スタッフ (ボランティア)8名  
授業内容 児童を8グループに分け、各グループにスタッフが

1名つき、以下の活動の支援を行った。なお、この授業の1週間後には美術館訪問が予定されていたため、本物の作品を鑑賞する前の下地をつくる活動とした。

#### ① さがしてあてよう

アートカード60枚の画像から、作品の一部分を切り取り拡大した映像がスクリーンに投影される。どの作品の一部か、手元にひろげたカードの図柄の中から探して当てる。

#### ② くらべてみよう

2つの作品の画像をならべてスクリーンに投影し、グループで一緒になって、2作品の共通点を出し合っていく。共通点が出尽くしたら相違点も挙げる。自画像と自画像の比較(シャガール《二重肖像》と藤田嗣治《自画像》)、海をテーマにした具象画と抽象画の比較(岡鹿之助《魚》と下郷羊雄《伊豆の海》)を行った。

#### ⑥東区・矢田小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 1月25日(火)10:45~11:30  
場 所 多目的ホール  
対象学年 4年生3クラス81名  
講 師 (学芸員)深谷克典  
授業内容 世界で一番有名な絵画《モナリザ》を取り上げ、この絵に潜んでいる謎(モデル、表情、背景)を解き明かしながら、なぜこの絵が傑作と言われるのかを考えた。また、《モナリザ》から約400年後に描かれた《おさげ髪の少女》と比較しながら、二つの絵の表現方法の違いと、なぜそのような違いが生まれるのかについても、児童との意見交換を通して考えた。

### ⑦中村区・日吉小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 2月1日(火)10:50~11:35  
場 所 特別活動室  
対象学年 2年生2クラス40名  
講 師 (学芸員)角田美奈子  
スタッフ (ボランティア)7名  
授業内容 名古屋市美術館を例にして美術作品と美術館について紹介したあと、各クラス3つ、計6つのグループに分かれて、「図画工作」の指導要領に記された目標(主に、「共通事項」、ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。)に配慮した課題「挿絵をつけよう」を行った。スタッフは担任教諭2名とともに活動の支援を行い、アートカード60枚のなかから用意された言葉(文章)にふさわしい内容を持つカードを選ぶことを通して、児童ひとりひとりの想像力を刺激するとともに、グループ活動のなかで互いの発想を共有し、異なる感覚や意見への理解と共感を育む機会とした。  
用意した文章は下記の通りであり、下線をつけた7つの言葉または文章に対してカードを選んだ。  
「①わたしは ②友だちの家に 行きました。  
③町を出て、④山のなかを行くと、⑤たくさん  
の鳥が とんでいました。  
⑥友だちは家で わたしを まっていました。  
その夜、⑦わたしは ゆめを 見ました。」



### ⑧昭和区・伊勝小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 2月23日(水)9:45~10:45  
場 所 視聴覚室  
対象学年 3年生2クラス55名  
講 師 (学芸員)清家三智  
スタッフ (ボランティア)8名  
授業内容 児童を8つのグループに分け、各グループにスタッフ1名がつき、以下の活動の運営・支援を行った。  
1) たんていゲーム  
全カード60枚を場に広げる。学芸員が掲示する、作品の一部を拡大した図版をよく観察し、色や形などをヒントに、児童は正解となる作品のアートカードを探す。作品の細部まで詳しく観察するウォーミングアップとして行った。  
2) 同じところ(似ているところ)をさがそう  
全カード60枚を図柄が見えないよう伏せて広げ、1人の児童が2枚を選んでめくる。2作品の図柄をよく見比べながら共通点(または似ているところ)をさがす。カードを選んだ児童が悩んでいるときは、他の児童の助けを借りて一緒にさがす。共通点が見つかったら、次の児童が新たにカードをめくる。  
3) プレゼントを考えよう  
全カード60枚を図柄が見えるように並べる。「自分の大切な誰かにプレゼントするとしたら」というテーマに沿って各自1枚を選び、贈る相手とその理由を発表しあう。

### (4)中学校美術部合同鑑賞会

日 時 2010年8月25日(水)9:30~15:00  
集合場所 名古屋市美術館2階講堂  
参加者 名塚中学校、南陽中学校、山王中学校、今池中学校、御幸山中学校、千鳥丘中学校、津賀田中学校の美術部員101名  
スタッフ 各校美術部顧問7名  
(学芸員)清家三智、保崎裕徳  
内 容 個人制作・室内制作が中心となる中学校美術部の生徒を対象に、他校の生徒との交流も兼ねて、美術鑑賞を通じた視野の拡大と新鮮な刺激をえる活動として企画されたもの。「あいちトリエンナーレ2010」4会場のうち、長者町会場へ繰り出し、グループごとに目当ての作品を見て廻った。各グループは3~4校のメンバーの混成とし、鑑賞ルートの計画や実際の美術鑑賞を通じて、親睦を深めていった。鑑賞後はまとめとして、絵と言葉を交え、グループごとに作品の感想を画用紙に書きこみ、発表した。



## (5)就業・職業・職場体験及び職場訪問受け入れ

1. 対象 中学校・高等学校 生徒

2. 内容 【体験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、清掃、警備、案内、監視、施設管理等の業務内容を知り体験する。

【訪問】常設展、企画展の鑑賞をするとともに、疑問点についてインタビューを行い美術館に関する理解を深める。

3. 実績

実施日	内容	学校名	学年	人数
22. 7. 27~28	体験	名古屋市立名古屋商業高校	2年	2人
22.10. 6	体験	名古屋市立日比津中学校	2年	4人
23. 1. 18	体験	名古屋市立富士中学校	1年	4人
23. 1. 25~26	体験	名古屋市立御幸山中学校	2年	2人
23. 2. 1~2	体験	名古屋市立守山中学校	2年	3人
23. 2. 9	体験	名古屋市立北中学校	2年	4人
22.10.28	訪問	江南市立北部中学校	2年	6人
23. 1. 26	訪問	名古屋市立南光中学校	1年	7人
23. 2. 8	訪問	名古屋市立天白中学校	1年	6人
23. 3. 9	訪問	美浜町立野間中学校	2年	6人



今年度はボランティア活動の今後について美術館とボランティアとの間で話し合いを重ねた結果、改めて活動年限を設けることで合意した。ボランティア組織にとってメンバーの新陳代謝が活気ある状態を維持するのに必要不可欠であり、美術館としても定期的に新規ボランティアを募集し、多くの市民に当館でのボランティア活動に関わってもらいたいという思いの一方で、活動機会の新たな拡充が困難なことや組織としての連帯感を維持できる人数の限度などを現実的な視点から検討した結果、次年度に募集予定の第7期からは活動年限を10年とすることを決め、現在活動中のボランティアについても一定の活動人数が確保できるよう調整を行った上でそれぞれ年限を設定した。

ボランティア活動に年限を設けることの是非については、これまでにも何度か議論を積み重ねてきた難しい課題であったが、今回の決定により、今後のボランティア活動がより円滑に進められる契機となるよう、美術館としても一層の努力を傾注していきたい。

### (1)ボランティア登録者(2010年4月～2011年3月)

第1期:江川敦子、大竹希至子、山田泰子 計3名

第2期:木村千代子、黒柳美紀子、桜井泉、杉山博之、藤栄朋子、堀井香里 ほか、計7名

第3期:今瀬弘美、小田光枝、神谷多恵子、北村圭衣子、榎原民恵、真田薫、竹山満里子、中嶋厚、三島きょう子 ほか、計10名

第4期:赤尾和江、天野恵子、荒川千華、井戸田早苗、加藤浩司、加藤真由美、久保田典子、栗木恵子、坂田典子、白野路子、杉浦直子、田内徳隆、土田晶子、寺西春美、中野芳枝、安井まり子、山田由紀子 ほか、計20名

第5期:赤尾和子、加藤貞典、加藤智美、北川恭子、木野道子、佐藤紀子、鈴木律子、瀧川友子、永田高志、野口健弘、原田直美、引地順子、平山千枝、藤井万巳、向井弓子、村松敦子、森和美、山田優子 ほか、計24名

第6期:伊藤えつ子、太田久美、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、桑名晴香、坂井千恵、中村俊雄、林梨加、藤巻ますみ ほか、計16名

### (2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

日時	時間	内容	講師
4月10日	午前10時～12時	新収蔵作品とキッズの日・新プログラムについて	清家学芸員
5月8日	午前10時～12時	検討会:名古屋まつりについて	ボランティア
6月12日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅱについて	清家学芸員/保崎学芸員
7月10日	午前10時～12時	ボランティア交流会	ボランティア
8月7日	午前10時～12時	「東京:50～70年代、ニューヨーク:70～90年代」	山田学芸係長
9月11日	午前10時～12時	連続と非連続一時の旅人、河原温一	名古屋ボストン美術館 馬場駿吉館長
10月9日	午前10時～12時	「ボランティア活動のルール」について	清家学芸員
11月13日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅲについて	原沢学芸員
12月11日	午前10時～12時	名古屋市美術館コレクション(エコール・ド・パリ)の特色について	深谷学芸課長
1月8日	午前10時～12時	「鑑賞ガイドのレベルアップに:視点を変えるためのヒント」	保崎学芸員
2月5日	午前10時～12時	瀬戸時代の北川民次について	竹葉学芸員
3月12日	午前10時～12時	2011年度名品コレクション展Ⅰについて	清家学芸員/角田学芸員

### (3)ガイド活動

#### ①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日(午前11時～午後2時)、一般を対象とした約1時間のガイドツアーをボランティア2名が担当した。

活動日数 283日間(「名古屋まつり」を除く)

延べ参加者数 2,153名

#### ②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心とした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。

a) あいちトリエンナーレ2010 国際美術展

**開催日** 8月29日、9月1日、2日、5日、8日、9日、12日、15日、16日、19日、20日、22日、23日、26日、29日、30日、10月3日、6日、7日、10日、11日、13日、14日、17日、20日、21日、24日、27日、28日、31日(計30日)

**時間等** 水、木、日、祝  
10時～/13時～

**担当** 1期:2名、2期:2名、3期:4名、4期:3名、5期:9名 計20名  
2人が組となり、1日を担当。

**方法** 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

**参加数** 延べ918人

b) ポーラ美術館コレクション展—印象派とエコール・ド・パリ

**開催日** 12月15日、16日、17日、18日、21日、22日、24日、1月7日、12日、13日、14日、16日、18日、19日、20日、21日、25日、26日、27日、28日(計20日)

**時間等** 火、水、木、金、土  
10時30分～/13時30分～

**担当** 2期:1名、3期:3名、4期:6名、5期:3名 計13名  
2人が組となり、1日を担当。

**方法** 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

**参加数** 延べ651人

③案内活動

総合案内・図書室案内を該当月の一定期間(定休日及び金曜日を除く)を、ボランティアで運営した。活動日一日につき6人(午前3人/午後3人)、延べ193人のボランティアが担当した。

〈活動日〉

月	日					月	日				
4	17	18	20	21	22	10					
5	15	16	18	19	20	11	6	7	9	10	11
6	5	6	8	9	10	12	4	5	7	8	9
7	1	3	4			1	15	16	18	19	20
8						2					
9						3					

(4)サポート活動

a) 係の活動

ボランティア全員が4つの係に分かれ、各まとめ役を中心に円滑なボランティア活動を支えるための活動を行っている。

- ・資料 美術館から提供した資料や互いに持ち寄って収集した資料などをボランティア間で共有するために定期的に資料の整理を行っている。新たに収集した資料や特別展から引き継いだ資料の取り扱いについてルールを定めたり、資料の出典を明らかにするなど、ボランティア全員にとって分かりやすく使いやすい資料提供に努めた。
- ・研修 学芸員同席による館内研修、外部講師を招聘しての館内研修、および館外での研修の企画・運営を行なった。
- ・団体対応 学校等の団体鑑賞を円滑に行うための取りまとめの他、自主勉強会などを実施し、小中学生向けのギャラリートークの進め方や円滑な引率方法などについて検討を行った。
- ・体験活動 「キッズの日」各プログラムの実施に際してスタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の下準備、当日の運営サポートを主に受け持った。また、当日の円滑な運営や対象となる作品への理解を深めるために事前打ち合わせや意見交換を随時行った。

b) 係以外の自主的な活動

名古屋まつり特別企画 まるごと一日ギャラリートーク

**日時** 10月17日(日) 9:30～17:00

**場所** 地下一階常設展示室、屋外美術館敷地内など

**スタッフ** ボランティア数十名

(学芸員)保崎裕徳

**内容** 常設展が無料開放日となる同日にあわせて、普段ボランティアが常設展でおこなっているようなギャラリートークを、より多くの人に体験していただくという趣旨の企画。来館者がいつの時間に入場しても、なんらかのギャラリートークが聞けるように、1時間おきに3種類、計14回のギャラリートークを行った。また、子どもを対象にしたワークシートを作成し、当日ロビーにて配布した。各イベントとも事前申込不要の自由参加で、詳細は以下のとおり。

- ①1点トーク…ボランティアのリードにより、来館者が1つの作品をじっくり鑑賞するギャラリートーク。所要時間約20分。10:00～、12:00～、14:00～、16:00～の4回開催。  
1回につき、2箇所(2作品)でのギャラリートークを同時に行った。
- ②ツアートーク…通常営業日に行っているボランティアによるギャラリートークと同じ形式で実施したもの。ボランティアの案内により、常設展の主要作品を順に巡っていく。所要時間約50分。11:00～、13:00～、15:00～の3回開催。
- ③建物ガイド…美術館内、館外を巡りながら、黒川紀章設計の特徴ある箇所を紹介していくガイドツアー。所要時間約50分。11:00～、13:00～、15:00～の3回開催。

④ワークシート…作品にまつわるクイズと豆知識  
を中心に、ボランティアが作成したワークシート  
を、来館した子どもにも配布した。

また、上記のギャラリートーク以外に、美術館運営のサポートとして、「監視補助」と「美化運動」の2つでボランティアの協力を得た。監視補助は、無料開放とギャラリートーク開催にともなう当日の会場の混雑を考慮し、人の流れが滞る箇所や、人が触れそうになる危険のある作品の周辺にボランティアが立つことにより、適切な声掛けでトラブルを未然に防いだもの。美化運動は名古屋まつりに先立ち、美術館南側の館外外壁、床面、池周辺の清掃を行ったもので、9月22日(水)15:00～16:30に実施した。



## (5)案内活動研修

総合案内や図書室における案内活動をサポートするため、新たに活動への参加を希望するものに対し、研修の機会を設けた。

## (6)その他

### ・特別展ガイド

所蔵作家と作品に直接関係しない内容の特別展は、定例会での研修としないため、ガイド担当者に対しては定例会終了後に別途時間を設け、展覧会担当学芸員により概要説明と質疑応答を内容とする研修を行っている。また、必要に応じて自主的な勉強会が行われている。

### 3 協力会

名古屋美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

<会員数>	<新規・継続別> (平成23年3月31日現在)		
	新規	継続	計
特別会員 8名	特別会員 1名	7名	8名
一般会員 124名	一般会員 13名	111名	124名
ユース会員 10名	ユース会員 2名	8名	10名
ペア会員 34名	ペア会員 9名	25名	34名
(計) 176名	(計) 25名	151名	176名

#### 平成22年度美術館協力会事業報告

- 1 展覧会ギャラリー・トークの開催  
「静けさのなかから:桑山忠明」  
平成22年5月8日(日) 17名参加  
「静けさのなかから:村上友晴」  
平成22年6月13日(日) 32名参加  
「あいちトリエンナーレ2010  
名古屋美術館・愛知県美術館合同鑑賞会」  
平成22年9月9日(木) 49名参加  
「あいちトリエンナーレ2010国際美術展」  
平成22年9月12日(日) 12名参加  
「ポーラ美術館コレクション展ー印象派とエコール・ド・パリ」  
平成22年12月19日(日) 46名参加  
「没後120年 ゴッホ展」  
平成23年3月6日(日) 93名参加
- 2 美術館見学ツアーの実施  
春 平成22年5月9日(日) 37名参加  
静岡県立美術館、秋野不矩美術館
- 3 講演会  
平成22年8月29日(日)講堂  
講師:島袋道浩氏  
テーマ:「島袋道浩、自作を語る」 180名参加
- 4 作家を囲む会  
平成22年8月29日(日)  
「島袋道浩氏」を囲む会 33名参加
- 5 ブログの本格的運用開始  
平成22年9月17日～  
〔投稿89件、閲覧数11,697回、ユーザー数(延)3,584名〕
- 6 オリジナル・カレンダーの作成及び配付  
「渡辺英司」氏のモノタイプ作品 《彼方此方》 250部
- 7 催しものの案内  
特別展、常設展、講演会などの情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- 8 作品の寄贈  
オリジナル・カレンダー 12枚  
切り抜かれた「日本産蝶類標準図鑑」 1冊  
両作品とも、平成23年2月8日の資料収集審査委員会で決定
- 9 総会の開催  
平成22年6月13日(日) 24名参加 (委任状75名)

### 4 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料やビデオ番組を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

#### 図書資料分類別冊数一覧

(平成23年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	565(3)	223(1)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,043(43)	3,416(25)
展覧会図録	11,205(246)	1,452(21)
研究書、技法書	312(1)	12(0)
年報、紀要、報告書	5,663(360)	20(1)
美術雑誌	12,369(62)	2,453(30)
その他(美術教科書、一般図書)	2,478(23)	1,092(1)
小計	39,635(738)	8,668(79)
総計	48,303(817)冊	

( )は今年度の受け入れ図書冊数

#### 入室者数 39,711名

4月	205名
5月	380名
6月	245名
7月	214名
8月	2,841名
9月	9,972名
10月	21,436名
11月	200名
12月	744名
1月	1,289名
2月	817名
3月	1,368名



### 出版・制作物一覧

#### 美術館ニュース「アートペーパー」No. 83、84、85

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 2 版、部数：各5,000部

#### 特集記事

83号：「ロケーション 鈴木昭男+藤本由紀夫」

84号：天命反転は起ったのか？ - 荒川修作の「死」をめぐる

85号：美術、そして美術館について



#### 年報

平成21年度の美術館活動全般の詳細な記録です。

A 4 版、68頁、PDFデータとして当館ホームページに掲載



#### 年間案内

平成23年度一年間の展覧会の情報を告知するものです。

A 4 版変形、部数：20,000部



#### 団体向けガイドトークのご案内

学校などの団体が常設展見学をする際の団体向けガイドトークの申し込み方法について記したものです。

A 4 版、モノクロ、部数：8,000部



平成22年度も厳しい財政状況の中で、多くの皆様方のご支援をいただきながら作品の収集を進めることができました。以下にその概要をお伝えします。

まず、購入作品としましては中村宏の《都市計画》を新たに収集いたしました。中村宏については2007年に回顧展「中村宏・図画事件1957-2007」を開催し、すでに出品作の中から何点かの作品を作者からご寄贈いただいていたのですが、今回、この画家の評価を一躍高めた1950年代の「ルポルタージュ絵画」の中から、現存する唯一の収集可能な作品として《都市計画》を入手することができました。

近年、地元作家を中心に多数の作品のご寄贈を毎年いただいておりますが、今年も多くの方々のご厚意により、貴重な作品の数々をコレクションに付け加えることができました。岐阜県出身の加藤延三は岸田劉生に心酔し、独学で絵を習得した画家ですが、今回ご遺族より初期の草土社風の緻密な写実絵画から、春陽会で活躍していた時期の日本画風な要素を加味した作品、さらには戦後間もない時期の独特の雰囲気をも漂わせる作品まで、15点の作品をご寄贈いただきました。さらに加藤延三は岸田劉生と個人的な交流もありましたが、それを示す記録写真や劉生自身がペンで描いた自画像などの貴重な資料もあわせて入手することができました。

名古屋に生まれ、抽象美術やシュルレアリスムの影響を受けながら前衛的な日本画の創造をめざした堀尾実については、昨年常設企画展としてまとまった展示を行いました。今回は、その中から堀尾の創作の全体像を把握することができる、各時期の代表作（10件13点）と実験的な作品（墨流し、フォト・コラージュ3件89点）、さらに関連資料（画集、目録など）などもあわせてご遺族からご寄贈を受けることができました。

行動美術協会の名古屋を代表する作家の一人辻親造は、地元の美術大学で後進の指導にもあたった人物ですが、この画家の初期の代表作の一つ《カラマゾフⅡ》をご寄贈いただきました。

久野和洋は名古屋の出身で、ヨーロッパに留学して初期ルネッサンスの古典的なフレスコ画法に影響を受

けた風景を得意としていますが、今回1990年代半ばから続いている「地の風景」シリーズにつながる近作の風景2点を作家本人からご寄贈いただきました。

海老原友忠は、当館で1998年に開催した特別展「戦後日本のリアリズム 1945-60」に出品されていた作家で、国鉄に勤務しながら周囲の情景を写実的な作風で記録した画家です。今回寄贈されたデッサンと関連資料は、デッサンを最初に所有していた作家の中野重治と交流のあった寄贈者からの申し出によって実現したものです。同じ寄贈者からは、名古屋の文化活動を長らく牽引してきた亀山巖の関係資料を多数ご寄贈いただきました。亀山巖に関しては、平成16年度にも豆本や装画本など多数の資料を収蔵しておりますが、今回の寄贈でさらにコレクションが充実することになりました。

地元を中心とする日本の近代写真の充実したコレクションは、当館の収蔵品の特徴の一つですが、今回の馬場八潮作品のまとまった寄贈で、一層その厚みを増すことになりました。満州で撮影された様々な写真と資料は、戦前の日本のピクトリアリズムのあり方を示す貴重な記録になっています。

さらに今年は、戦後日本の前衛美術を代表する作家の一人、鬚嘔の代名詞ともいえるレインボーカラーを駆使した初期の作品《アニメイテッド・レインボー》9点のご寄贈もいただきました。そして、美術館協力会より毎年ご寄贈をいただいているカレンダーについては、今年はいちトリエンナーレの出品作家でもある、渡辺英司氏に依頼したカレンダー13点を新たに入手しました。近年この作家の評価を高めている図鑑から切り抜いた蝶を利用したカレンダー作品で、過去の協力会カレンダーに劣らぬユニークな仕上がりになっています。

今年度収集した作品については、整理と調査をさらに進め、できる限り早い時期に常設展で皆様にご披露したいと考えております。美術館活動の根幹である作品の収集について、今後とも皆様の暖かいご支援とご協力をお願いしたいと思います。

## (1)購入



1. 中村 宏(1932- )  
NAKAMURA, Hiroshi  
《都市計画》  
Urban Planning  
1958年  
油彩、グラビア写真、新聞・合板  
oil, gravure, newspaper on plywood  
92,0×183,0cm

## (2)受贈



1. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《自画像》  
Self Portrait  
1916年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
35,7×28,0cm  
加藤禎宏氏寄贈



2. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《橋のある風景(駄知西灶橋)》  
Landscape with Bridge (Dachi-Nishigama Bridge)  
1917年  
油彩・厚紙  
oil on cardboard  
32,3×40,0cm  
加藤禎宏氏寄贈



3. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《風景(駄知西灶)》  
Landscape (Dachi-nishigama)  
1917年頃  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
31,7×41,0cm  
加藤禎宏氏寄贈



4. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《少女像(松枝)》  
Portrait of a Girl (Matsue)  
1921年  
油彩・厚紙  
oil on cardboard  
39,5×32,0cm  
加藤禎宏氏寄贈

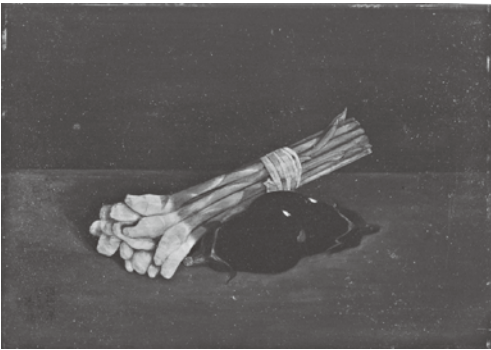




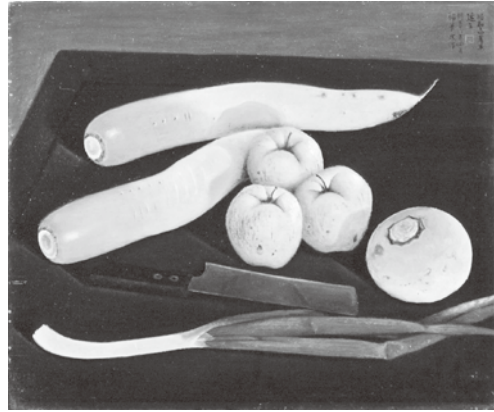
5. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《風景(二)》  
Landscape No.2  
1924年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
31.5×41.0cm  
加藤禎宏氏寄贈



6. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《新緑》  
Fresh Green  
1926年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
32.0×41.3cm  
加藤禎宏氏寄贈



7. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《茄子と椒》  
Eggplants and a Bundle of Gingers  
1928年  
油彩・板  
oil on board  
23.5×33.2cm  
加藤禎宏氏寄贈



8. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《過根一掃》  
Clean up the Root Crops  
1949/63年  
油彩・板  
oil on board  
45.5×54.0cm  
加藤禎宏氏寄贈



9. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《少女像(娘・喜代)》  
Portrait of a Girl (My Daughter, Kiyo)  
1916年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
24.0×31.3cm  
加藤禎宏氏寄贈



11. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《婦人像》  
Portrait of a Woman  
1916年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
25.0×19.5cm  
加藤禎宏氏寄贈

10. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《自画像》  
Self Portrait  
1916年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
25.0×19.5cm  
加藤禎宏氏寄贈





12. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《少女像》  
Portrait of a Girl  
1916年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
25.0×19.5cm  
加藤禎宏氏寄贈



13. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《婦人像》  
Portrait of a Woman  
1917年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
25.0×19.5cm  
加藤禎宏氏寄贈

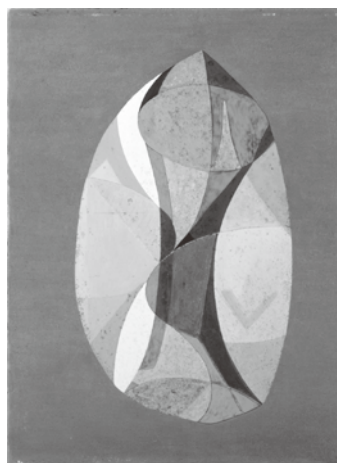
14. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《少女像》  
Portrait of a Girl  
1917年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
25.0×19.5cm  
加藤禎宏氏寄贈



15. 加藤延三(1891-1970)  
KATO, Nobuzo  
《婦人像(妻ふみ)》  
Portrait of a Woman (My Wife, Fumi)  
1919年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
30.7×24.0cm  
加藤禎宏氏寄贈



16. 岸田劉生(1891-1929)  
KISHIDA, Ryusei  
《自画像》  
Self Portrait  
1914年  
インク・紙  
ink on paper  
29.5×18.5cm  
加藤禎宏氏寄贈



17. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
《作品B》  
Work B  
1948年  
紙本着彩  
colored on paper  
70.5×56.0cm  
堀尾敬氏寄贈

18. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
《作品B》  
Work B  
1948年  
紙本着彩  
colored on paper  
72.8×60.4cm  
堀尾敬氏寄贈



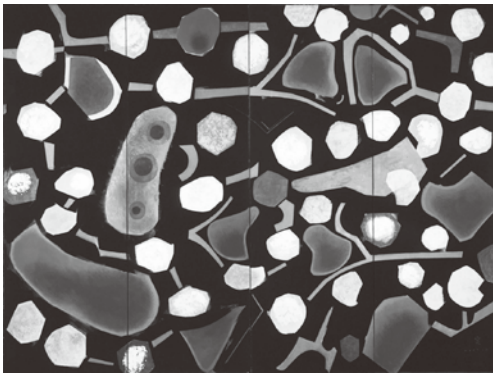




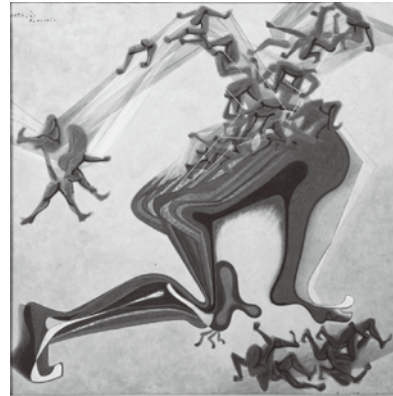
19. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《フィロ》  
 Philo  
 1950年  
 紙本着彩、銀箔  
 colored on paper and silver leaf  
 90.8×116.5cm  
 堀尾歌氏寄贈



20. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《有心無心》  
 Conscious / Unconscious  
 1952年  
 日本顔料、銀泥・キャンヴァス  
 Japanese pigment and silver mud on canvas  
 73.3×90.8cm  
 堀尾歌氏寄贈

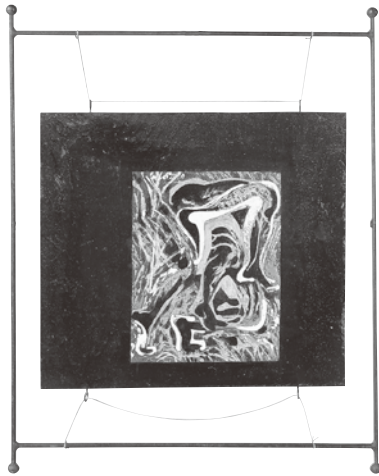


21. 堀尾実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《冬の構図》  
 Winter Composition  
 1955年  
 紙本着彩(屏風)  
 colored on paper (screen painting)  
 136.0×182.0cm  
 堀尾歌氏寄贈

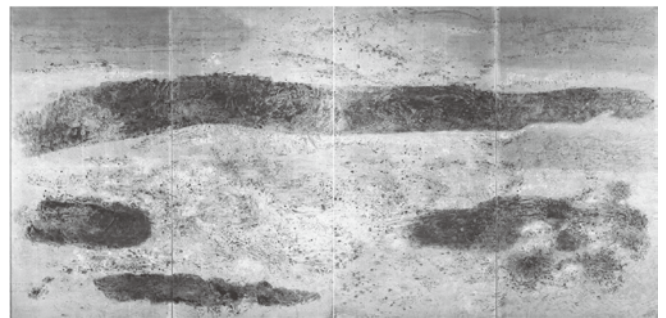
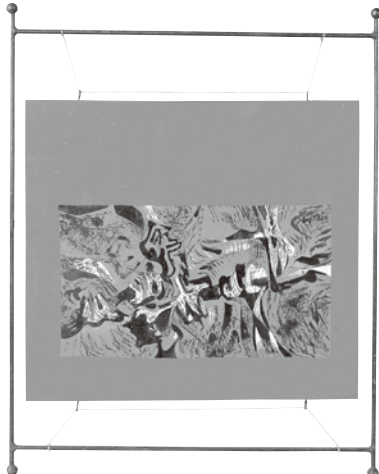


22. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《企望》  
 Dream Explorers  
 1956年  
 日本顔料・キャンヴァス  
 Japanese pigment on canvas  
 90.7×90.7cm  
 堀尾歌氏寄贈

23. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《四大(1)》  
 Big Four No.1  
 1956年  
 油彩・板、鉄フレーム  
 oil on board and steel frame  
 30.2×33.3cm  
 堀尾歌氏寄贈



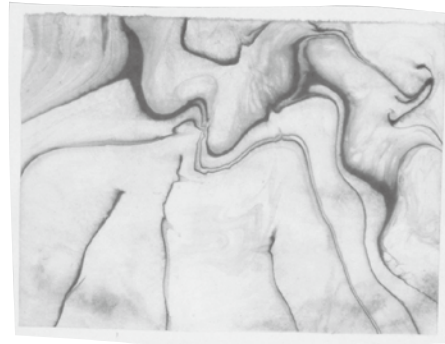
24. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《四大(2)》  
 Big Four No.2  
 1956年  
 油彩・板、鉄フレーム  
 oil on board and steel frame  
 32.6×36.2cm  
 堀尾歌氏寄贈



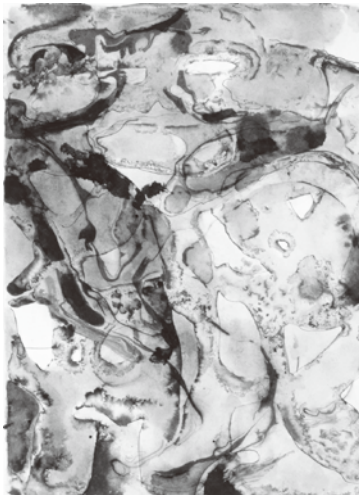
25. 堀尾 実(1910-1973)  
 HORIO, Minoru  
 《鳴門》  
 Naruto  
 1960年  
 紙本着彩、銀箔(屏風)  
 colored on paper and silver leaf (screen painting)  
 各169.5×178cm  
 堀尾歌氏寄贈 1件2点



26. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
[水墨画]  
[Ink and Wash Paintings]  
1966年頃  
墨・紙  
chinese ink on paper  
各46.5×35.3cm  
堀尾歌氏寄贈 1件4点



27. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
[墨流し1]  
[Paper Marbling No.1]  
1966-68年頃  
墨・紙  
chinese ink on paper  
各31.8×26.1cm  
堀尾歌氏寄贈 1件29点



28. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
[墨流し2]  
[Paper Marbling No.2]  
1966-68年頃  
墨・紙  
chinese ink on paper  
各38.4×27.1cm  
堀尾歌氏寄贈 1件10点



29. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
[フォト・コラージュ]  
[Photo-Collage]  
1967-72年頃  
印刷物・紙  
printed matter on paper  
各38.2×27.1cm  
堀尾歌氏寄贈 1件50点



30. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
《薔薇》  
Rose  
1973年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
22.7×15.8cm  
堀尾歌氏寄贈



31. 堀尾 実(1910-1973)  
HORIO, Minoru  
《窓》  
Window  
1953年  
日本顔料・キャンヴァス  
Japanese pigment on canvas  
24.0×33.0cm



32. 辻 親造(1913-2009)  
TSUJI, Shinzo  
《カラマゾフⅡ》  
The Brothers of Karamazov No.2  
1952年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
145.0×112.0cm  
辻康男氏寄贈





33. 鏝嘔(1931- )  
AY-O  
《アニメイテッド・レインボー(生かされた虹)》  
Animated Rainbow  
1965年  
シルクスクリーン、コラージュ・紙  
screen print, collage on paper  
各72.0×58.0cm  
9件9点



34. 久野和洋(1938- )  
KUNO, Kazuhiro  
《地の風景・道のかたち》  
A View of the Ground - Shape of Road  
2003-04年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
130.3×194.0cm



35. 久野和洋(1938- )  
KUNO, Kazuhiro  
《地の風景・三本の樹》  
A View of the Ground - Three Trees  
2007年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
162.0×194.0cm



36. 海老原友忠(1920-2003)  
EBIHARA, Tomotada  
《田端機関庫》  
Tabata Engine Shed  
1972年  
コンテ・紙  
charcoal on paper  
25.8×47.5cm  
岡田節子氏寄贈



37. 馬場八潮(1903-1974)  
BABA, Yashio  
《ロシア婦人(寺嶋ニーナ)のポートレート》  
Portrait of A Russian Woman (Mrs. Nina Terashima)  
n. d. (1933-1939年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
g. s. p  
14.7×10.7cm  
馬場亮男氏寄贈



38. 馬場八潮(1903-1974)  
BABA, Yashio  
[題不詳(老婆と馬)]  
title unknown (An Old Woman and Horses)  
n. d. (1933-1939年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
g. s. p  
27.4×28.9cm  
馬場亮男氏寄贈



39. 馬場八潮(1903-1974)  
BABA, Yashio  
[題不詳(石臼と老人)]  
title unknown (An Old Man with a Stone Mill)  
n. d. (1933-1939年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
g. s. p  
27.3×23.7cm  
馬場亮男氏寄贈



40. 馬場八潮(1903-1974)

BABA, Yashio

《落日》

The Setting Sun

n. d. (1933-1939年)

ゼラチン・シルバー・プリント

g. s. p

21.3×23.4cm

馬場亮男氏寄贈



41. 馬場八潮(1903-1974)

BABA, Yashio

《ロマノフカ・スタディ・シート》

Study Sheets of Romanofka Villegge

1939年頃

ゼラチン・シルバー・プリント

g. s. p

19.8×25.0cm

馬場亮男氏寄贈 71件71点



42. 馬場八潮(1903-1974)

BABA, Yashio

《『ロマノフカ／近藤林区』》

Settlement of White Russian Emigrant at

Romanofka Villegge / A Forestry District of Kondo

1939年頃

ゼラチン・シルバー・プリント

g. s. p

27.0×22.0cm

馬場亮男氏寄贈 1冊30点



43. 伊達良雄(1907-1946)

DATE, Yoshio

《『林区の人々／四家房開拓団／青少年義勇隊』》

Resident of A Forestry District of Kondo / A Colony in Shikebo / A Volunteer Corps of Youth

1939年頃

ゼラチン・シルバー・プリント

g. s. p

27.0×22.0cm

馬場亮男氏寄贈 1冊30点

### (3)特別資料



1. 《岸田劉生関連記録写真》

Documentary Photographs regarding KISHIDA, Ryusei

1923-25年

加藤禎宏氏寄贈 9件9点





2. 《堀尾実関連資料》

Materials regarding HORIO, Minoru  
1930-62年  
堀尾歌氏寄贈 38件38点

- |    |             |              |
|----|-------------|--------------|
| 1  | スクラップブック 1  | 1930~1953年   |
| 2  | スクラップブック 2  | 1953~1955年   |
| 3  | スクラップブック 3  | 1955~1957年   |
| 4  | スクラップブック 4  | 1957~1962年   |
| 5  | 画集『匹亞』1     | 1956年        |
| 6  | 画集『匹亞』2     | 1959年        |
| 7  | 匹亞会パンフレット 5 | 1955年 5月 1日  |
| 8  | 匹亞会パンフレット 6 | 1955年 6月 5日  |
| 9  | 匹亞会パンフレット 7 | 1955年 6月 15日 |
| 10 | 匹亞会パンフレット 8 | 1955年 7月 1日  |
| 11 | 匹亞会パンフレット 9 | 1955年 7月 15日 |

- |    |                          |              |
|----|--------------------------|--------------|
| 12 | 匹亞会パンフレット10              | 1955年 9月 1日  |
| 13 | 匹亞会パンフレット11              | 1955年10月 1日  |
| 14 | 匹亞会パンフレット                | 1956年 7月 5日  |
| 15 | 匹亞会パンフレット                | 1956年 9月 1日  |
| 16 | 匹亞会パンフレット1957. 2         | 1957年        |
| 17 | 匹亞会パンフレット1959. 6         | 1959年        |
| 18 | 西遊記、ガリバー旅行記、ヨブ記連作のために    | 1955年12月 3日  |
| 19 | 匹亞会第1回展出品目録              | 1958年 3月 9日  |
| 20 | 帆グループパンフレットNo.1          | 1954年        |
| 21 | 堀尾画伯作品頒布趣意書              | 1955年        |
| 22 | 日本アヴァンギャルド美術家クラブ会員名簿No.7 |              |
| 23 | スパ スパイラル第1回名古屋展出品目録      |              |
| 24 | 5530AG展出品目録              | 1956年        |
| 25 | 『窓口』第9号                  | 1956年 3月 20日 |
| 26 | 『窓口』第12号                 | 1956年 6月 25日 |
| 27 | 中美会報 第9号                 | 1948年10月 5日  |
| 28 | 中美会報 第11号                | 1949年 4月 1日  |
| 29 | 中美会報 第12号                | 1949年 6月 1日  |
| 30 | 中美会報 第13号                | 1949年 9月 1日  |
| 31 | 中美会報 第14号                | 1949年10月 1日  |
| 32 | 中美会報 第15号                | 1949年11月 1日  |
| 33 | 中美会報 第19号                | 1950年 3月 1日  |
| 34 | 中美会報 第20号                | 1950年 4月 1日  |
| 35 | 中美会報 第27号                | 1950年12月 1日  |
| 36 | 中美会報 第32号                | 1953年 9月 1日  |
| 37 | 中美会報 第34号                | 1954年10月 1日  |
| 38 | 中美会報 第35号                | 1954年11月 1日  |



3. 《海老原友忠関連資料》

Materials regarding EBIHARA, Tomotada  
岡田節子(=藤森節子)氏寄贈 3件3点

- |   |                             |       |
|---|-----------------------------|-------|
| 1 | 「海老原友忠素描展」(リーフレット) 現代画廊     | 1972年 |
| 2 | 岡田孝一 『中野重治 自由散策』 武蔵書房       | 1995年 |
| 3 | 藤森節子 『女優原泉子 中野重治と共に生きて』 新潮社 | 1994年 |



4. 亀山巖(1907-1989)

KAMEYAMA, Iwao  
[本を読む人]  
[Reading]  
n.d.  
紙(切り絵)  
cut papers on paper  
27.2×34.8cm  
岡田節子氏寄贈



5. 亀山巖(1907-1989)

KAMEYAMA, Iwao  
《雑談》  
Chat  
n.d.  
インク・紙  
ink on paper  
13.8×18.6cm  
岡田節子氏寄贈





6. 亀山 巖(1907-1989)  
KAMEYAMA, Iwao  
[コレ商法ナルカ]  
[This is the Business Way.]  
n.d.  
水彩・紙  
watercolor on paper  
27.4×24.3cm  
岡田節子氏寄贈



7. 《亀山巖関連資料》  
Materials regarding KAMEYAMA, Iwao  
岡田節子氏寄贈 329件 329点

- 1 小谷剛主宰『作家』(月刊)  
第67号~73号、75号~92号、94号~99号、102号~162号、  
173号、186号~198号、200号~260号、262号~284号、  
286号~411号、415号、450号、462号、468号、493号、499号、  
500号、516号、季刊作家創刊号 計324冊(325冊)
- 2 木下信三個人誌『樹料』第51号「亀山巖特集」 2009年
- 3 木下信三編『亀山巖 モダニズム詩文集』 2010年
- 4 亀山巖「僕のタルホ」『南北』第3巻第9号(コピー資料) 1968年
- 5 稲垣志代「夫・稲垣足穂」芸術生活社 1971年



8. 《馬場八潮関連資料》  
Materials regarding BABA, Yashio  
馬場亮男氏寄贈 25件25点

- 1 『光る丘』第1巻第1号(1937年11月22日発行) 1937年
- 2 『光る丘』第1巻第2号(1937年12月20日発行) 1937年
- 3 『光る丘』第2巻第1号(『淵上白陽近作集』、1938年1月30日発行) 1938年
- 4 『光る丘』第2巻第2号(1938年2月28日発行) 1938年
- 5 『光る丘』第2巻第3号(1938年4月15日発行) 1938年
- 6 『光る丘』第2巻第4号(1938年5月14日発行) 1938年
- 7 『光る丘』第2巻第5号(1938年6月10日発行) 1938年
- 8 『光る丘』第2巻第6・7号(1938年7月15日発行) 1938年
- 9 『光る丘』第2巻第8号(1938年8月31日発行) 1938年
- 10 『光る丘』第2巻第9号(1938年10月5日発行) 1938年
- 11 『光る丘』第2巻第10・11号(1938年11月15日発行) 1938年
- 12 『光る丘』季刊第1輯・2599年版(1939年6月30日発行) 1939年
- 13 『第一回赤玉盃獲得写真競技大会入選画集』(1925年9月15日発行、株式会社壽屋) 1925年
- 14 『第二回赤玉盃獲得写真競技大会入選画集』(1926年7月20日発行、株式会社壽屋) 1926年
- 15 『日本光画年鑑 1930年版』(1930年12月25日発行、日本光画協会) 1930年
- 16 『満洲國』(1942年4月25日発行、監修満洲國國務院弘報處、朝日新聞社) 1942年
- 17 『EASTERN ASIA』NO. 3, 1940(1940年12月15日、南満洲鉄道株式会社) 1940年
- 18 『新聞写真年鑑 昭和9年版』(1934年9月25日発行、新聞聯合社写真部) 1934年
- 19 『雪の興安嶺へ』 満洲國林野局興安嶺森林調査隊記念写真帖(n.d. 三楊社写真場) 1939-41年頃
- 20 『ハルビンの回想』(1966年11月25日発行、恵雅堂出版) 1966年
- 21 『芸術写真』第1巻第6号(『女流作品号』1921年11月1日発行) 1921年
- 22 白陽会写真展パンフレット n.d.
- 23 『ポエジー』創刊号(1953年8月1日発行、写真文芸社) 1953年
- 24 『建国十周年慶祝全満洲写真師大会記念集合写真』 194年1頃 セラチンシルバー 17.7×24.4  
プリント
- 25 『結婚記念写真』 n.d. セラチンシルバー 16.8×24.7  
プリント



9. 渡辺英司(1961-)  
WATANABE, Eiji  
《2011年度カレンダー「彼方此方」》  
“Hither and Thither” as a calendar of Nagoya City Art Museum Membership  
2010年  
印刷、コラージュ・紙  
print and collage on paper  
29.6×41.9cm  
名古屋市美術館協力会寄贈 13件13点

#### (4)資料収集状況一覧

年度別									
年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※-83	※83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
購入総計		43	(1)291	212	1,263	95	48	0	(1)1,952
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	130
寄贈		(8)66	(14)253	(102)853	(9)95	(135)207	22	(420)1,469	(688)2,965
収集総計		(8)125	(15)585	(102)1,096	(9)1,393	(135)305	73	(420)1,470	(689)5,047

#### 収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコール・ド・パリ	—	29	3	478	0	2	0	512
メキシコ・ルネサンス	—	29	35	328	52	3	0	447
現代の美術	—	130	(1)69	(9)276	11	59	(3)4	(13)549
郷土の美術	(8)125	(15)397	(101)989	311	(135)242	9	(417)1,466	(676)3,539
総計	(8)125	(15)585	(102)1,096	(9)1,393	(135)305	73	(420)1,470	(689)5,047

( )内の数字は平成22年度収集分  
※：分類変更による増減

## ベン・シャーン《友達の写真屋》

1945年 テンペラ・板 50.8×76.2cm

画面保護のために、低反射UVカット帯電防止型アクリルを取り付けた。あわせて額縁の裏面を加工し、箱型の空間に作品を安定した状態で収め、裏板を取り付けた。

## ベン・シャーン《牛乳工場で働く囚人たち》

1934年 グワッシュ・紙 35.6×49.5cm

画面保護のガラスを、低反射UVカット帯電防止型アクリルに交換した。あわせてブック型マットを作成、装着し、裏板は無酸性のボードに交換した。

## ベン・シャーン《健康診断を受ける囚人たち》

1934年 テンペラ・厚紙 26.8×39.8cm

画面保護のガラスを、低反射UVカット帯電防止型アクリルに交換した。あわせて作品の裏に中性紙ボードを敷いて固定し、無酸性ボードの裏板を取り付けた。

## 八島正明《行商人》

1974年 油彩・キャンヴァス 112.1×162.1cm

## 八島正明《女》

1980年 油彩・キャンヴァス 162.1×112.1cm

## 八島正明《夏の日》

1985年 油彩・キャンヴァス 112.1×162.1cm

額縁が反っていたために、展示の際に、作品と額縁との間にできた隙間から壁面が見えていた。そのため、額縁とキャンヴァスの木枠をT字金具で固定し、反りを補正して隙間を埋める処置をした。

## 丹羽和子《人と人との対話》

1963年 油彩、和紙コラージュ・キャンヴァス 162.0×131.0cm

## 丹羽和子《人・さまざま》

1987年 油彩、コラージュ・キャンヴァス 194.0×131.0cm

新規に額縁を作成し、作品に装着した。

## 中村宏《望遠鏡少女》他45点のマット装および額縁作成

中村宏の多くの作品は、台紙に貼られ、簡易なフォトフレームに収められた状態で寄贈されていた。そのため、各作品に中性紙ブック型のマット装（または中性紙マット貼り）を施し、マットのサイズに合わせた額縁を新規作成した。マット装を施した作品とサイズ、額縁についての詳細は以下のとおり。（※作品の番号は、『平成19年度名古屋市美術館年報』「平成19年度受贈」pp. 41-47の記載による）

## A. ブック型マット装(690×520mm、白)：計34点

専用額縁(木質、黒塗)作成：計20点

- 6 《飛行少女》1969年 色鉛筆(ピンク)・紙 53.4×36.9cm
- 7 《低空飛行》1969年 色鉛筆(赤)・紙 50.5×29.8cm
- 8 《脱虫》1969年 色鉛筆(茶)・紙 45.1×34.4cm
- 9 《『夢野久作全集』表紙絵》1969年 色鉛筆(ピンク)・紙 52.6×36.8cm
- 11 《望遠鏡少女》1969年 インク、白・紙 27.1×39.0cm
- 13 《風景》1969年 インク・紙 36.3×27.0cm
- 14 《化物少女・表》1970年 インク、墨・紙 38.1×26.8cm
- 15 《化物少女・裏》1970年 インク、墨・紙 38.2×27.0cm
- 16 《乗物盡絵・表紙》1970年 インク・紙 38.4×26.4cm
- 17 《乗物盡絵・キャタピラ》1970年 インク、墨・紙 38.3×27.0cm
- 18 《乗物盡絵・飛行機》1970年 インク、墨・紙 38.2×26.6cm
- 19 《乗物盡絵・船》1970年 インク、墨・紙 38.4×26.8cm
- 20 《乗物盡絵・モノレール》1970年 インク・紙 38.4×26.7cm
- 21 《台風と少女》1970年 インク・紙 45.5×36.6cm
- 22 《精神地形論》1970年 インク・紙 37.4×27.4cm

- 23 《呪物たちの低空飛行》1970年 インク・紙 35.2×54.7cm
- 24 《聖少女》1970年 インク・紙 37.9×25.5cm
- 25 《F601機》1970年 インク・紙 36.5×52.3cm
- 26 《少女舟》1970年 インク、墨・紙 36.7×52.4cm
- 27 《少女列車》1970年 インク・紙 36.8×52.5cm
- 28 《少女トロッコ》1971年 インク、白・紙 27.0×38.2cm
- 29 《日本漫画風景》1972年 インク・紙 38.2×27.0cm
- 30 《呪物世界地図》1972年 水彩、インク、色鉛筆・紙、トレーシングペーパー 51.9×36.8cm
- 31 《空飛ぶ蒸気機関車》1973年 インク・紙 34.3×52.4cm
- 32 《第22回「早稲田祭」ポスター原画》1975年 インク・紙 52.4×36.5cm
- 33 《『わが父・夢野久作』》1976年 鉛筆・紙 36.0×25.3cm
- 35 《タプロオ機械》1987年 水彩、アクリル、鉛筆、コンテ、サインペン 35.8×51.2cm
- 37 《少女地蔵・1》1994年 アクリル、鉛筆・紙 37.8×26.0cm
- 38 《少女地蔵・2》1994年 アクリル、鉛筆・紙 37.8×26.0cm
- 45 《『早稲田大学新聞』(1966年1月6日付)「我れ幻の決戦を見たり」》1965年 印刷・紙 27.3×39.6cm
- 46 《現代思潮社ポスター「トロッキー選集全巻完結記念講演会」》1966年 印刷(赤・青)・紙 37.3×53.7cm
- 48 《微粒子的タルホ像》1969年 印刷(ピンク)・紙 50.1×37.9cm
- 51 《精神地形論》1970年 印刷・紙 37.4×27.4cm
- 53 《少女舟》1977年 シルクスクリーン・紙 36.6×52.6cm

## B. ブック型マット装(850×650mm、白)：計4点

専用額縁(木質、黒塗)作成：計4点

- 43 《ポスター「議会主義との決別」》1962年 印刷(赤・黒)・紙 50.1×53.7cm
- 47 《芦川洋子舞踏講演会ポスター》1967年 印刷・紙 72.3×51.5cm
- 49 《『夢野久作全集』ポスター》1969年 印刷(赤・黄・金)・紙 72.6×51.2cm
- 50 《『現代詩手帖』ポスター》1969年 印刷・紙 72.6×52.0cm

## C. マット貼り(1120×733mm、白)：計1点

専用額縁(木質、黒塗)作成：計1点

- 52 《第21回「早稲田祭」ポスター》1974年 印刷(青・黄)・紙 112.0×73.3cm

## D. マット貼り(788×1083mm、白)：計1点

専用額縁(木質、黒塗)作成：計1点

- 44 《日本大学芸術学部祭ポスター「幽閉者は人工楽園を疾駆する」》1963年 印刷(赤)・紙 78.8×108.3cm

## E. ブック型マット装(980×980mm、白)：4点1組

専用額縁(木質、黒塗)作成：計1点

- \*以下の4点を1つのマット、額縁に収める
- 39 《崩壊1》2000年 アクリル、鉛筆、サインペン・紙、コラージュ 27.5×33.2cm
  - 40 《崩壊2》2000年 アクリル、鉛筆、サインペン・紙、コラージュ 26.5×35.5cm
  - 41 《崩壊3》2000年 アクリル、鉛筆、サインペン・紙、コラージュ 25.9×33.2cm
  - 42 《崩壊4》2000年 アクリル、鉛筆、サインペン・紙、コラージュ 35.3×33.1cm

## F. ブック型マット装(283×1180mm、白)：計1点

専用額縁(木質、黒塗)作成：計1点

- 12 《地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車》1969年 インク・紙 19.5×106.5cm

作品を収集する際に、作品の材質やサイズ、裏書やサインなどの物理的なデータを採取するほかに、作者、作品名、制作年、展示や所蔵の来歴などの歴史的なデータについての文献的な調査も行っている。これらの情報は作品研究の基礎となるものであるが、収集時点で、すべてを明確にすることは難しい場合が多いので、収集後も継続的に情報収集に努め、追跡調査を続けて、不明な事項を明らかにする調査・研究活動を行っている。

### (1)作家の生没年の変更

記述凡例：記述は、作家名（現行「所蔵作品総目録」の分類および作品番号または年報の頁数）／現行年／改定年／理由の順とする。

- ・ 荒川修作(国内作家／洋画13)  
現行年：(1936～ )  
改訂年：(1936～2010)  
理 由：作家の死去
- ・ 安藤幹衛(平成15年度年報／p. 54)  
現行年：(1916～ )  
改訂年：(1916～2010)  
理 由：作家の死去
- ・ 山田正亮(国内作家／洋画266)  
現行年：(1930～ )  
改訂年：(1930～2010)  
理 由：作家の死去
- ・ バリー・フラナガン(海外作家／彫刻8)  
現行年：(1941～ )  
改訂年：(1941～2009)  
理 由：作家の死去

### (2)作品名の変更

記述凡例：記述は、作家名（現行「所蔵作品総目録」の分類および作品番号または年報の頁数）／現行年／改定年／理由の順とする。

- ・ 伊藤敏博(平成21年度年報)  
現行作品名：山上風景  
改訂作品名：山上秋景  
理 由：キャンバス裏面に手書きによる記載を発見した。

収蔵資料貸出

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
田淵銀芳	流氓ユダヤー父子 流氓ユダヤーチェス 流氓ユダヤー男	H22. 4. 1 ~ 6. 15 兵庫県立美術館	「中山岩太」展 H22. 4. 17 ~ 5. 30
川崎亀太郎	流氓ユダヤー題不詳(仲間) 流氓ユダヤー題不詳(姉妹、窓辺) 流氓ユダヤー題不詳(姉妹) 流氓ユダヤー題不詳(少女) 流氓ユダヤー題不詳(三人の子供) 流氓ユダヤー題不詳(門前)		
モーリス・ユトリロ アメデオ・モディリアーニ	ラパン・アジュール 立てる裸婦(カリアティードのための習作)	H22. 4. 10 ~ 7. 15 メナード美術館	「パスキンとバリを愛した画家たち—北海道立近代美術館のコレクションを中心に」 H22. 4. 24 ~ 6. 27
前田青邨	富貴花 宿場	H22. 4. 15 ~ 7. 31 古川美術館	「青邨の芸術」展 H22. 6. 8 ~ 7. 11
池田龍雄	秩序(化物の系譜シリーズ) 神童(化物の系譜シリーズ) 貌(化物の系譜シリーズ) 虫類図譜シリーズ(A) 虫類図譜シリーズ(B) 虫類図譜シリーズ(E) ストリップ・ミル 禽獣記シリーズ その1 巨食(禽獣記シリーズ)	H22. 6. 1 ~ H23. 3. 31 山梨県立美術館 川崎市岡本太郎美術館 福岡県立美術館	「池田龍雄—アヴァンギャルドの軌跡」展 H22. 6. 19 ~ 7. 19 H22. 10. 9 ~ H23. 1. 10 H23. 1. 29 ~ 3. 13
東郷青児 中村宏	帽子をかむった男(歩く女) F601機 少女列車 少女トロッコ 乗り物畫絵:表紙 乗り物畫絵:キャタピラ 乗り物畫絵:飛行機 乗り物畫絵:船 乗り物畫絵:モノレール	H22. 6. 20 ~ H23. 1. 30 青森県立美術館 静岡県立美術館 島根県立石見美術館	「ロボットと美術」展 H22. 7. 10 ~ 8. 29 H22. 9. 18 ~ 11. 7 H22. 11. 20 ~ H23. 1. 10
三岸節子	静物 クリスタル(青) 二つの太陽	H22. 9. 21 ~ 11. 30 一宮市三岸節子記念美術館	「三岸節子展 色彩のエスプリ」 H22. 10. 9 ~ 11. 23
吉川三伸	葉に囚る絵画 死からの幻想	H22. 11. 6 ~ H23. 1. 24 板橋区立美術館	「20世紀検証シリーズNo.2 福沢一郎研究所」展 H22. 11. 20 ~ H23. 1. 10
フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	(837) 郷愁の紫色の屋根	H22. 11. 15 ~ H23. 3. 31 ソウルアートセンター	「フンデルトワッサー2010 in ソウル」 H22. 11. 29 ~ H23. 3. 17
舟越桂	かたい布はときどき話す	H22. 11. 25 ~ H23. 2. 28 熊本市現代美術館	「舟越桂」展 H22. 12. 11 ~ H23. 2. 13
櫃田伸也	通り過ぎた風景	H22. 12. 22 ~ H23. 3. 5 損保ジャパン東郷青児美術館	「櫃田伸也展—通り過ぎた風景—」 H22. 1. 8 ~ H23. 2. 13
藤本由紀夫	RECORD REAL(3D)	H23. 1. 4 ~ 3. 20 茨城県近代美術館	「耳をすまして—美術と音楽の交差点」 H23. 1. 22 ~ 3. 6
池田遙邨	灯台	H23. 2. 5 ~ 7. 2 姫路市立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 倉敷市立美術館	「池田遙邨展」 H23. 2. 19 ~ 3. 27 H23. 4. 5 ~ 5. 8 H23. 5. 14 ~ 6. 19



作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
益子愛太郎 唐武  淵上白陽 米城善右衛門  竹田梅汀 大橋松太郎	濱邊 落葉松 街 拗者 横を向いたポーズ 題不詳(眺める人々) 冬の姿 題不詳(朝鮮人の集落) 題不詳(影) 奈良の印象 秋の田舎 題不詳(家のある風景)	H23. 2.25～5.25 東京都写真美術館	「芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展」 H23. 3. 8～5. 8
アンディ・ゴールズワージー	栗の枯葉／大内山村／1987年11月 15日 楓の紅葉による鎖／大内山村／1987 年11月21日 編まれた竹／紀伊長島町／1987年11 月29日	H23. 3. 8～7.10 熊本市現代美術館	「水・火・大地」展 H23. 4. 9～6.12
田淵俊夫	大地悠久洛陽黄河	H23. 3.10～5.15 香雪美術館	「田淵俊夫一澄みわたる四季」 H23. 3.11～5. 8

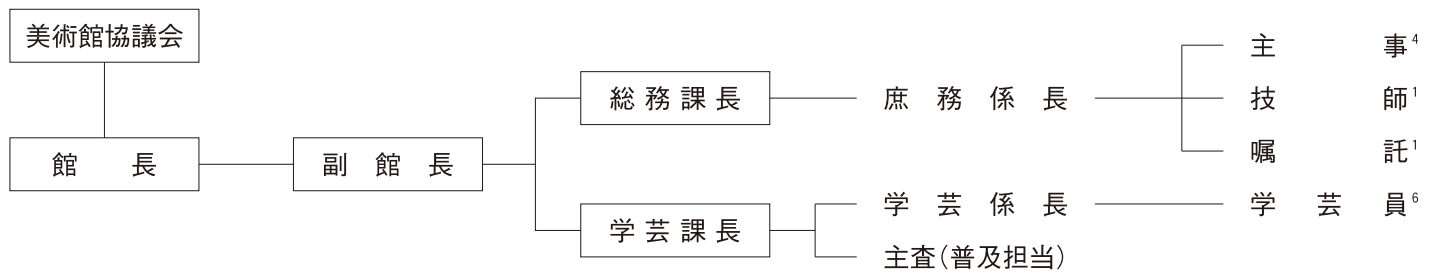
# 入館者一覽 VISITOR

展覧会名	開催期間	有 料								無 料		入場者 総 数	
		個 人				団 体				有 料 合 計	無 料 招待等		
		一 般	高大生	小中生	小 計	一般	高大生	小中生	小 計				
常 設 展	平成22年 4月1日(木)～ 平成23年 3月31日(木)	7,805	1,637	無料 (6,046)	9,442	210	194	無料 (1,409)	404	9,846	129,139	138,985	
特 別 展	静けさのなかから： 桑山忠明／ 村上友晴	平成22年 4月24日(土)～ 平成22年 7月4日(日)	3,105	701	81	3,887	0	56	0	56	3,943	2,175	6,118
	あいちトリエンナーレ 2010 国際美術展	平成22年 8月21日(土)～ 平成22年 10月31日(日)	55,735	8,523	0	64,258	78	129	0	207	64,465	9,968	74,433
別 展	ポーラ美術館コレク ション展 一印象派とエコー ル・ド・パリ	平成22年 12月7日(火)～ 平成23年 2月6日(日)	25,133	2,592	1,122	28,847	243	57	143	443	29,290	8,907	38,197
	没後120年 ゴッホ展	平成23年 2月22日(火)～ 平成23年 3月31日(木) ※統計数字は年度 末までのもの	119,981	7,744	9,431	137,156	2,837	380	499	3,716	140,872	17,697	158,569
特 別 展 小 計		203,954	19,560	10,634	234,148	3,158	622	642	4,422	238,570	38,747	277,317	
合 計		211,759	21,197	10,634	243,590	3,368	816	642	4,826	248,416	167,886	416,302	
											教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	46,783	
											総 計	463,085	

## 〈年度別入館者数等〉

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	285日	282日	284日	6,672日
		入場者数	131,498人	92,902人	138,985人	3,351,444人
	特 別 展	開催日数	245日	237日	209日	4,882日
		入場者数	314,476人	260,110人	277,317人	6,671,862人
入 場 者 小 計		445,974人	353,012人	416,302人	10,023,306人	
教育普及事業参加者		28,290人	27,353人	46,783人	528,176人	
入 館 者 合 計		474,264人	380,365人	463,085人	10,551,482人	

### 1 組織図



### 2 美術館協議会

#### (1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立城山中学校長	山田ちづ子	愛知県私学協会副会長	大谷 恩
愛知県立旭丘高等学校長	川村 則夫	名古屋市立名東高等学校長	鈴木 靖之
(財)名古屋市文化振興事業団理事長	相羽 規充	名古屋市社会教育委員	野村由美子
名古屋市地域女性団体連絡協議会理事	遠藤 恒子	名古屋市立小中学校PTA協議会理事	熊谷 素子
愛知県立芸術大学教授	森田 義之	名古屋商工会議所文化委員会委員長	須田 寛
愛知県美術館長	牧野研一郎	名古屋造形大学教授	江本菜穂子
名古屋大学文学研究科准教授	加藤 靖恵		

#### (2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	場 所	協 議 題
第1回定例会 平成22年7月23日(金) 15:00~16:30	美術館講堂	○会長及び副会長の選出について ○平成21年度事業実施結果について ○平成22年度事業実施状況について
第2回定例会 平成23年2月23日(水) 15:00~16:15	美術館講堂	○平成22年度事業実施状況について ○平成23年度事業計画案について

### 3 職 員

館 長	松永 恒裕	学芸課長	深谷 克典
副館長	神谷 浩	学芸係長	山田 諭
総務課長	渡辺 保夫	主査(普及)	鈴木 明世
庶務係長	橘 弘子	学 芸 員	角田美奈子
主 事	中島 直子		竹葉 丈
	中村 治彦		原沢 暁子
	前川 恵子		笠木日南子
	大橋 一弘		清家 三智
	小川 和秀		保崎 裕徳
技 師	山田 哲夫		
嘱 託			

### 4 運営予算 (平成22年度)

総予算額	内 訳	
232,660千円	特別展関係費	90,703千円
	常設展運営費	16,125千円
	資料関係費	6,556千円
	教育普及事業費	10,276千円
	調査研究費	596千円
	管 理 費	108,404千円

平成22年度名古屋市美術館年報

発行日

平成24年1月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

# 名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005